

総合分析実験センター 自己点検評価報告書

平成18年度

平成18年度総合分析実験センター自己点検評価報告書

1. 部局等の目的・目標

佐賀大学総合分析実験センターは、本学における教育研究の総合的支援を目的とした全学共同施設で、「生物資源開発部門」、「機器分析部門」「放射性同位元素利用部門」および平成18年度新設の「環境安全部門」の4部門からなる。

生物資源開発部門は、組換え DNA 実験と動物実験に関する教育と研究、実験講習、教育訓練および安全管理を担当する。機器分析部門は、大型高性能分析機器類の維持管理、総合的な分析・測定に関する教育と研究、分析機器の使用講習会および教育訓練を担当する。放射性同位元素利用部門は、放射性同位元素等の利用に関する教育と研究、放射性同位元素等安全取扱講習会および安全管理を担当する。環境安全部門は、環境分析機器の安全管理と教育講習、環境整備及び環境分析に関する研究の支援、環境問題に関する共同研究の受入れ及び相談窓口、環境問題についての教育及び情報提供を担当する。これらの4部門が機能的に連携して学内の研究教育を総合的に支援する。

総合分析実験センターに関する本学の中期計画として、次の3項目が定められている。

- ①総合分析実験センターを基盤として、実験機器類の整備拡充と全学的有効利用システムの構築を図り、学生教育並びに社会的ニーズに応じた教育訓練環境を整備する。
- ②総合分析実験センターを研究支援組織の中核として整備し、研究室、研究機器等の共同利用を進める。
- ③学外の研究者が総合分析実験センター等の分析機器類を活用できるシステムの構築を図る。

2. 部局等の概要

佐賀大学総合分析実験センターは、社会的な要請度の高い生命、環境、材料等の研究やこれらの複合領域研究に対応できる人材の育成を総合的かつ効果的に支援する体制を構築するために、平成14年4月1日に、従来の「機器分析センター」と「放射性同位元素実験室」を「機器分析分野」、「放射性同位元素利用分野」に改組し、それに新設の「ライフサイエンス分野」を加えて学内共同教育研究支援施設として設立された。平成15年10月1日の佐賀医科大学との統合にあたり、同医科大学の動物実験施設、実験実習機器センター、R I 実験施設をさらに加え、生命科学領域の教育研究支援体制を充実させ、「生物資源開発部門」、「機器分析部門」および「放射性同位元素利用部門」の3部門からなる全学的な研究教育支援施設として新たな「総合分析実験センター」に生まれ変わった。さらに、平成18年度に「環境安全部門」を新設し、これらの4部門が連携して、学内の理工、農、医、文化教育学分野の研究教育を総合的に支援している。センター組織は、センター長（併任）、副センター長（併任）、助教授4名、助手2名、教務員2名、技術専門職員6名、技術職員1名、非常勤職員6名から構成されている。

平成18年度のセンター利用者は、延人数69,929名、センターを利用して得られた業績は、著書16件、学術論文89件、学会発表267件で、センターが貢献した外部資金獲得は、35件で総額61,899,000円である(4.センター利用実績参照)。また、研究業績の多くに学生が関与しており、センターは本学の研究教育に大きく貢献している。

3. 領域別の自己点検評価

(1) 教育支援の領域

ア 教育支援環境に関する事項

総合分析実験センターを基盤として、実験機器類および生物資源の維持・開発と放射性同位元素利用に関する設備の整備拡充と全学的有効利用システムの構築を図り、学生教育並びに社会的ニーズに応じた教育訓練環境を整備することに、以下の事項を中心に、取り組んだ。

- 1) 学生等が利用した機器とそれによって得られた研究成果の収集を年度ごとに行なうこととし、その調査対象とする機器、調査方法、データ整理について平成18年度に検討した。平成19年度より調査を行うこととした。(平成18年度の利用実績を本報告書の末尾に示す。)
- 2) 学外研究機関による総合分析実験センター利用のために、「佐賀大学総合分析実験センター受託試験取扱要項」を作成した。平成19年度より一部の機器について受託試験を開始するために料金(案)を作成した。この受託試験により、学外研究機関が正式にセンター内の機器を、センター教職員立ち会いのもとで、操作可能になる。
- 3) 共同利用可能な機器についての情報を発信するホームページは構築済みであるが、共同利用可能な機器の更なる拡大を行うと共に、ホームページの改善を図った。合わせて、低利用頻度機器、および廃棄予定機器について調査し、これら機器を一時収納するための収納庫の運営計画を策定し、概算要求を行った。
- 4) 総合分析実験センターで行われる教育訓練の際、アンケート調査を随時行い、学生等のニーズを把握した。例えば、1月に本庄地区で開催した放射線業務従事者のための教育訓練でアンケートを実施した。これら調査の問題点を検証し、次回の教育訓練でどこを工夫するかについての検討を終えた。
- 5) 平成18年6月に「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」が文部科学省よりだされたので、これに基づいた佐賀大学動物実験規程を作成し、これを学内に周知するための講習会を鍋島・本庄両キャンパスで開催した。
- 6) 既に作成済みのマニュアル・手引きについて、更新が必要なものについては

随時更新を行なっているが、本年度は、放射線業務従事者新規登録のための教育訓練用てびきを大幅に改訂した。

また、総合分析実験センターを主たる研究の場としている修士2年の学生が、日本学術振興会特別研究員DC1に申請し採用が決まった。

また、技術職員の評価項目に、教育支援を取り入れた評価基準を策定し、個人評価の試行案の試行を一部の技術職員が実施した。

(2) 研究支援の領域

ア 学術・研究活動に関する事項

次のことに取り組んだ。

- 1) 学内外との共同研究を推進
- 2) 学外研究プロジェクトの応募に参画
- 3) 全国レベルのシンポジウムを開催

そのために、医食同源プロジェクトに参画し、生活習慣病の病態モデルとなる遺伝子組換えウサギの開発とそれを用いた分子病理学的研究を行った。また、地元企業（株式会社バイオテック）と共同研究を実施した。また、様々な共同研究の公募に応募した。学外研究プロジェクトとしては、文科省のナショナルバイオリソースプロジェクトに応募した。全国レベルのシンポジウムとしては、ウサギフォーラム（第2回）を山梨大学で開催し、佐賀大学は事務局を担当した。また、11月に、日本植物脂質研究会主催、総合分析実験センター共催で本学において第19回植物脂質シンポジウムを開催した。

一方で、総合分析実験センター専任教員を中心とした部門間連携研究プロジェクトの検討を行なったが、プロジェクトの策定まで至らなかった。今後、学部や他センターとも連携した検討が必要である。

イ 研究支援環境に関する事項

研究支援環境に関して、次のことに取り組んだ。

- 1) 共同利用可能な機器についての情報を発信するホームページは構築済みであるが、共同利用可能な機器の更なる拡大を行うと共に、ホームページの改善を図った。合わせて、低利用頻度機器、および廃棄予定機器について調査し、これら機器を一時収納するための収納庫を確保するための予算措置を平成19年度に求めることとした。
- 2) 4月1日に環境安全部門を設置し、11月1日着任にした本庄地区機器分析部門担当助教授が環境安全部門の業務も担うこととした。環境安全部門の事

業として 3R(Reduce, Reuse, Recycle)事業（搬出廃液・廃試薬の削減および低使用頻度、および廃棄予定物品のリサイクル、リユース事業）を提案した。

- 3) 復活再生の気運を高め、また、低額装置・廃棄予定装置の再利用を促すために、その収納庫の整備計画を策定した。合わせて、化学系研究設備有効利用ネットワークの概算要求に対して復活再生要求機器リストを提出した。
- 4) 遺伝子組換え動物作成の試験的試行を行った。
- 5) 「佐賀大学総合分析実験センター受託試験取扱要項」、「受託試験の手続き案内」、「機器操作申請書」等の案を作成した。
- 6) 動物実験に関して、研究テーマに即した飼育室・実験室の改善を検討した。特に、遺伝子組換えマウスの飼育スペース拡張を行い、また、動物飼育ラックの地震対策を実施することとした。しかし、予算不足のため滞っている。
- 7) 必要な動物実験に関する設備や飼育機材の充実のために、予算内でできる限りのことをしたが、十分な状態ではない。上記6)の事情とあわせて、そのために、動物実験施設の全面改修のための施設整備概算要求を提案した。
- 8) 稼働率の少ない部屋の有効利用のため利用形態の見直しを実施した。
- 9) 本庄地区の放射性同位元素利用部門で利用申し込みの電子化を実施した。

加えて、大学間の機器の相互利用のために、次のことに取り組んだ。

- 1) 他大学の共同利用可能機器に関する情報を大学内に知らせる。
- 2) 他大学へ総合分析実験センター内の共同利用可能機器に関する情報を発信する。
- 3) 化学系研究設備有効利用ネットワークに協力する。

そのために、これらを実際に公開するためのホームページの更新を図ると共に、九州・山口地区の機器分析関連のセンター間で、共同利用機器の確認を行なった。あわせて、佐賀大学として化学系研究設備有効活用ネットワークの協力し、共同利用機器として供出する機器を取り決め、共同利用への準備を進めた。

また、優れた人材の活用のために次のことに取り組んだ。

- 1) 研究支援者の獲得
- 2) 技術職員の研究への参画を促進

そのために、研究支援者の採用を続けているが、新たな獲得には至っていない。また、技術職員2名が科研費を獲得した。

(3) 国際交流・社会貢献の領域

ア 教育における社会連携・貢献に関する事項

次のことに取り組んだ。

1) 遺伝子リテラシー教育

そのために、佐賀県教育センターで、理科の教員を対象に遺伝子組換え実験の講習会を行った。

イ 研究における社会連携・貢献に関する事項

学外の研究者が総合分析実験センター等の分析機器類および生物資源を活用できるシステムの構築を図るために、以下のことに取り組んだ。

- 1) 学外研究機関の佐賀大学動物実験施設利用のための規定を作成する。
- 2) 学外からの機器使用に対するシステム構築の準備をする。
- 3) どのような装置を企業が使いたいか調査する。

そのために、学外研究機関による総合分析実験センター利用のために、「佐賀大学総合分析実験センター受託試験取扱要項」を平成18年度中に作成し、平成19年度より一部の機器について受託試験を行うこととした。地域社会のニーズの把握については、平成19年度に学外者に公開可能な機器類は全て公開することとし、それに対する学外者の反応をみることとした。

共同研究を活性化し、成果を地域に還元することに取り組んだ。そのために、医食同源プロジェクトに参画し、生活習慣病の病態モデルとなる遺伝子組換えウサギの開発とそれを用いた分子病理学的研究を行った。また、地元企業（株式会社バイオテック）と共同研究を実施した。

また、佐賀大学産学連携推進機構を活用し、地域に貢献する研究支援活動を行うために、産学官連携推進機構設立記念披露会で2件のパネル出展を行った。また、産学官連携推進機構のホームページからの情報発信に協力した。

ウ その他国際交流・社会貢献に関する事項

英語で行なう教育訓練システムの充実を計るために、①放射性同位元素利用部門では、日本アイソトープ協会発行の Basic Knowledge of Radiation and Radioisotopes を購入し、英語で行なう教育訓練システムの充実を計った。

(4) 組織運営の領域

ア 教育研究組織の編成・管理運営に関する事項

本庄地区と鍋島地区のテレビ会議システムを活用して会議を行った。

イ 財務に関する事項

動物飼育の受益者負担金の増額を10月から実施した。

また、自己収入の増加を図ることも一つの目標として、学外研究機関による総合分析実験センター利用のために、「佐賀大学総合分析実験センター受託試験取扱要項」を平成18年度中に作成し、平成19年度より一部の機器について受託試験を行うこととした。また、遺伝子組換え動物作成受託の試験的試行を行っている。

ウ その他組織運営に関する事項

本庄地区の機器分析部門の助教授、本庄地区の放射性同位元素利用部門の助手、および鍋島地区の生物資源開発部門の准教授について公募を行った。書類選考、講演会、面接を行い、教育研究支援能力、教育研究能力、教育研究指導能力、国際貢献、地域・社会貢献を含めた総合的な基準により選考を行なった。

(5) 施設の領域

ア 施設、設備等に関する事項

災害対策マニュアルに関して、以下の活動を行った。

- 1) 総合分析実験センターとしての「災害対策マニュアル」を全学的なマニュアルと整合性をとりながら作成した。なお、放射線施設に関しては、放射線障害予防規定に「地震等の災害時における措置」について定めている。また、動物実験施設においても独自の「災害対策マニュアル」を作成し、平成19年の講習会で利用者に配布することとした。
- 2) 災害対策要項等に基づいた取組の啓発活動を、総合分析実験センターで開催する講習会時にも行なうこととした。また、実際、1月に本庄地区で行った放射線業務従事者の利用講習で、実際に実施した。

4. センター利用実績

平成 18 年度 動物実験施設利用実績 (利用者数)

登録者数

コード	職種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H19.3.31
170	係長													0	1
175	主任	12	17	13	7	10	11	18	12	13	14	9	18	154	10
177	教室系技術職員	2	2	2										6	
184	教室系一般職員													0	
188	技術専門職員	65	50	70	71	77	62	69	64	68	58	60	68	782	16
606	大学院担当教授	12	7	3		1	6	3	5	6	3	9	1	56	25
608	大学院担当助教授	128	108	101	71	112	74	95	82	65	85	95	74	1,090	37
609	講師	45	32	30	20	19	28	28	23	38	47	29	28	367	19
611	助手	255	234	257	236	279	229	224	240	234	224	260	307	2,979	100
613	教務員	3	7	7	8	4	4	3	2	3	2	4	2	49	5
723	薬剤師													0	1
801	大学院生	332	303	274	361	487	391	441	373	306	272	303	370	4,213	107
810	研究生	79	95	78	95	74	94	91	79	97	47	38	41	908	25
820	学生	2	2	1	1									6	
901	医員	8	4	14	11	11	11	11	15	9	18	20	41	173	24
910	研修医													0	
950	技能補佐員	181	169	174	148	160	131	154	134	152	93	111	128	1,735	8
951	教室系非常勤	109	90	104	93	84	88	105	116	116	117	96	94	1,212	33
960	その他(貸出・施設)	17	14	23	10	29	35	42	24	92	31	73	27	417	26
800														0	
	合計	1,250	1,134	1,151	1,132	1,347	1,164	1,284	1,169	1,199	1,011	1,107	1,199	14,147	437

身 分	延べ入館者数	実人数 (3)
教官、医員、研修医、技官、 教務員（所属大学・機関に限る）	5,502	227
研究生、学生等（1）	5,127	132
上記以外の研究者（2）		
小 計	10,629	359
事務官	154	11
教室雇用・アルバイト等	2,947	41
小 計	3,101	52
合 計	13,730	411
業務委託・業者・その他	417	26
総 計	14,147	437

《注1》 所属大学・機関の学生

（大学院・研究生・留学生・学部学生）

《注2》 所属大学・機関以外から来訪した研究者

（学生：大学院・研究生・留学生・学部学生も含む）

《注3》 平成18年度に実際利用した利用者数です。

平成 18 年度 鍋 島 地 区 R I 実 験 施 設 講 座 等 別 利 用 実 績

講座等名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度 合計
分子生命科学	生化学 (出原)		6			3	60	29	5	3	2	1	1	110
	生化学 (副島)	39	15	3		9	26	35	73	27	49	85	5	366
	免疫・血清学		1	5	5	3	1	1	2	3	3	6		30
	薬理学	13	5	18	12	3	12	15	34	12	4	9	12	149
	生物学	1	9	35	1	23	2	10		1				82
	化学										1			1
病因病態科学	病理学 (徳永)		7	4	1			2	3					17
	病理学 (戸田)	2		2	3	2			2	2				13
	微生物学	1		1	3			6	3	5	15	9	15	58
社会医学	地域保健科学 (友国)	25	26	38	19		10	10	2				1	131
	地域保健科学 (田中)						1		1					2
内科学	肝臓・糖尿病・内分 泌			13	1					2				16
	呼吸器				38	9	1	38		13	7	27	41	174
	血液	6	28	10	13	4		24	21	2	2	2	1	113
	循環器									1				1
	神経				22									22
	膠原病			1										1
	消化器			13										13
先端心臓病学	41	6	2	3	2	9	42	35	47	42	41	34	304	
小児科学											2			2
外科学	一般・消化器			2	2	2	2	3	4			2	1	18
歯科口腔外科													1	1
総合分析実験 センター	本庄地区										10	1		11
計		128	103	147	123	60	124	215	187	116	137	183	112	1,635

平成 18 年度本庄地区 R I 実験施設 利用実績

RI 実験室入退室管理システム登録者

教職員	16 名	農学部	10 名
		総合分析実験センター	4 名
		事務員	2 名
学生	26 名	農学部	26 名

RI 実験室利用者 (年間のべ数)

366 名

機器利用者

液体シンチレーションカウンタ	38 時間
MALDI-TOF MS	60 時間 (241 サンプル)
X 線照射装置	31 時間

平成18年度 鍋島地区機器分析部門利用実績

部 屋 名	17年度各部屋入室(人)
2F製氷機	2,286
3F製氷機	183
4F製氷機	1,388
ELITE	2,792
IBAS	740
LFR	5,780
SECOM	223
세미나(2260)	375
ダナシス	3,123
ピクトロ	63
マシンショップ	413
レブコ	942
院2F低温室	551
管理室	462
原子吸光	1,539
光学的	370
光学顕微鏡	1,436
生化2階	1,410
走査1	69
走査2	254
中央滅菌	2,129
超遠心	868
電顕1	131
電顕2	244
透過1	238
透過2	562
培養室	527
標本作成	414
合 計	29,512

平成18年度本庄地区機器の利用実績

機器		平成17年度
紫外可視近赤外分光光度計 パーキンエルマー(株) Lambda19	延件数(人)	195
	延時間数(H)	225
電子スピン共鳴装置(ESR) 日本電子(株) JES-TE300	延件数(人)	145
顕微付フーリエ変換赤外分光光度計 パーキンエルマー(株) Spectrum2000	延件数(人)	525
	延時間数(H)	833
粉末X線回折装置 理学電気(株) RINT1100	延時間数(H)	1,762
4軸型単結晶自動回折装置 理学電気(株) AFC-5	延時間数(H)	6,216
ガスクロマトグラフ質量分析計 日本電子(株) QMS	延件数(人)	1,041
	延件数(サンプル)	2,333
超伝導高分解能フーリエ変換核磁気共鳴装置 日本電子(株) JNM-AL300	延件数(人)	6,677
	延時間数(H)	2,013
円偏光二色性分散計 日本分光(株) J-720	延件数(人)	105
	延時間数(H)	336.2
蛍光光度計 日本分光(株) FP-750	延件数(人)	18
旋光計 日本分光(株) DIP-370	延件数(サンプル)	6
DNAシーケンサー ABI社 PRISM 310 Genetic Analyzer	延件数(サンプル)	1,839

センターを利用して得られた業績
著書（本庄地区）

著書タイトル	著者(学生:赤字)	掲載雑誌	掲載年	巻号頁
Carbonylative cross-coupling reaction of 4-fluoro-5-stannylpyrazole	T. Hanamoto, T. Suetake	Proc. of the 18th ISFC – International Symposium on Fluorine Chemistry	2006	
Synthesis and reactions of <i>N</i> -methyl-4-trifluoromethyl-5-stannylpyrazole	M. Egashira, T. Hanamoto	Proc. of the 18th ISFC – International Symposium on Fluorine Chemistry	2006	
Tributyl(3,3,3-trifluoro-1-propynyl)stannane	T. Hanamoto	e-EROS, RN00712	2006	
New approach to fluorinated compounds via fluoroacetylene derivatives	T. Hanamoto	Proc. of the 233rd ACS National Meeting & Exposition	2006	
Efficient diacetoxylation of iodoarenes by using potassium peroxodisulfate and sodium perborate as oxidant	T. Kitamura, Md. D. Hossain	Proc. of the 2nd International Conference on Hypervalent Iodine	2006	23-27
Double Thiophenylation in Pt-Catalyzed Reaction of Thiophenes with Ethyl Propiolate	M. L. Keita, J. Oyamada, T. Kitamura	Proc. of the 22nd International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur	2006	28
Application of Pt-Catalyzed Hydroarylation to Polystyrenes	T. Kitamura, T. Hashimoto, N. Iguchi, J. Oyamada	Proc. of the 10th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry	2006	235
Pt-Catalyzed Reaction of Propiolates with Pyrroles	J. Oyamada, T. Kitamura	Proc. of the 10th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry	2006	236
Complexation equilibrium analyses in the presence of ion-exchangers	M. Kamachi, T. Miyajima	Proceedings of International Symposium on Ion Exchange in Korea	2006	57-58
An interpretation of Co ²⁺ /SCN ⁻ complexation in the presence of cation-exchange resin	T. Miyajima, J. Aihara, M. Kamachi	Proceedings of International Symposium on Ion Exchange in Korea	2006	63-64
Syntheses, Structures and Magnetic Properties of Carboxylato-Bridged Dinuclear Oxovanadium(IV) Complexes with 2,2'-Dipyridylamine	D. Hieda, Y. Yamada, M. Koikawa, and T. Tokii	Proc. of the 4 th Japan (Saga U) and Korea (PNU) Joint Meeting on Chemistry	2006	38
Syntheses, Crystal Structures and Magnetic Properties of Bis(<i>m</i> -phosphinato)-Bridged Dinuclear Manganese(II) Complexes with 2,2'-Bipyridine and 1,10-phenanthroline	Y. Sato, Y. Yamada, M. Koikawa, and T. Tokii	Proc. of the 4 th Japan (Saga U) and Korea (PNU) Joint Meeting on Chemistry	2006	39
Improved electrochemical performance of LiMnPO ₄ by spray dry method	H. Noguchi, Y. Xia	Proc. of 210 th Meeting of the Electrochemical Society	2006	Abstract No.316

著書 (鍋島)

著書タイトル	著者(学生:赤字)	掲載雑誌	掲載年	巻号頁
大腸癌と食事	藤瀬剛弘、藤本一真	藤盛孝博編集:新しい診断と治療のABC	2006	138-145
Vitamin K2の肝癌細胞におけるMMP発現抑制とその機序.	井手康史、尾崎岩太、張浩、江口有一郎、安武努、水田敏彦	第9回 Vitamin K & Bone 研究会記録集	2006	p39-42
肝癌細胞の増殖に対するVitamin K2と抗癌剤の併用に関する基礎的検討.	尾崎岩太、張浩、井手康史、江口有一郎、安武努、水田敏彦、山本匡介	第9回 Vitamin K & Bone 研究会記録集	2006	p31-34

学術論文 (本庄)

論文タイトル	論文著者(学生:赤字)	掲載雑誌	掲載年	巻号頁
Synthesis and crystal structure of 1,2,4-trifluoro-3,5,6-tris(triisopropylsilyl)- benzene	T. Hanamoto, Y. Koga, T. Kawanami, H. Furuno, J. Inanaga	Tetrahedron Lett.	2006	47, 493-495
Synthesis and reactions of 1-methyl-5-tributylstannyl-4-trifluoromethylpyrazole	T. Hanamoto, M. Egashira, K. Ishizuka, H. Furuno, J. Inanaga	Tetrahedron	2006	62, 6332-6338
Ditopic receptors of hexaamide derivatives derived from hexahomotrioxa- calix[3]arene triacetic acid	T. Yamato, S. Rahman, Z. Xi, F. Kitajima and J. Tae Gil	Can. J. Chem.	2006	84, 58-64
Regioselective synthesis and inclusion properties of <i>distal</i> -disubstituted tetrathiacalix[4]arenes	T. Yamato and C. Pérez- Casas, H. Yamamoto, M. R. J. Elsegood, S. H. Dale and C.Redshaw	J. Incl. Phenom	2006	54, 261-269
Synthesis and inclusion properties of a novel thiacalix[4]arene-based hard-soft receptor with 1,3-alternate conformation	T. Yamato, C. P. Casas, M. R. J. Elsegood, S. H. Dale and C. Redshaw	J. Incl. Phenom	2006	55, 231-236
Formation of Dimmeric Molecular Capsule For Supramolecular Applications	C. Pérez- Casas and T. Yamato	CHEMICAL ENGINEERING COMMUNICATIONS	2006	193, 1185-1193
Medium-size cyclophanes, 68. Synthesis and bromination of 1,2-dimethyl- [2.3]metacyclophan-1- enes	T. Yamato, T. Hironaka, M. Shiino, T. Saisho and S. Miyamoto	J. Chem. Research	2006	110-114

Synthesis, structures and inclusion properties of distal-bis[(2-pyridyl-methyl)oxy]tetrathiacalix[4]arenes	T. Yamato, C. Pérez-Casas, S. Rahman, J. T. Gil, M. R. J. Elsegood, and C. Redshaw	J. Chem. Research	2006	270-273
Preparation and Binding Properties of A Novel C3 Symmetrical Hexahomo-trithiacalix[3]arene	K. Kohno, M. Takeshita and T. Yamato	J. Chem. Research	2006	251-253
Medium-size cyclophanes, 69 Synthesis and <i>ipso</i> -nitration of 1,2-dimethyl[2.10]metacyclophan-1-enes	T. Yamato, T. Hironaka and S. Miyamoto	J. Chem. Research	2006	393-395
Synthesis and Inclusion Properties of <i>O</i> -Tris(benzyloxy)hexahomo-trioxacalix[3]arenes	T. Yamato, S. Rahman, F. Kitajima, X. Zeng, and J. Tae Gil	J. Chem. Research	2006	496-498
Medium-sized cyclophanes. Part 70. Direct introduction of bromo group to the bridged methylene of 5,13-di- <i>tert</i> -butyl-8,16-dimethyl[2.2]-metacyclophane	T. Yamato, S. Miyamoto, R. Okabe, Y. Tazaki and H. Anai	J. Chem. Research	2006	493-495
Uranium(V) and uranium(IV/V) mixed valence complexes with <i>p-tert</i> -butylhomocalix[n]arenes (n = 4, 6)	L. Salmon, P. Thuéry, T. Yamato, S. Miyamoto and M. Ephritikhine	Polyhedron	2006	25, 2439-2446
Medium-sized cyclophanes. 71. Synthesis, structures and photo-induced cyclization of 1,2-diphenyl[2.n]metacyclophan-1-enes	T. Yamato, T. Saisyo, T. Hironaka and S. Miyamoto	J. Chem. Research	2006	558-560
Medium-sized cyclophanes. Part 72. Synthesis and structures of 9-methoxy(1,4)-naphthaleno[3.3]metacyclophane-2,11-diones	T. Yamato, R. Okabe, T. Saisyo, S. Miyamoto and M. Mitazaki	J. Chem. Research	2006	593-595
Synthesis, structure and magnetic behaviour of dinuclear uranium(IV) complexes with a 'calixsalophen' type macrocycle	L. Salmon, P. Thuéry, E. Rivière, T. Yamato, S. Miyamoto and M. Ephritikhine	New. J. Chem.	2006	30, 1220-1227
Medium-size cyclophanes, 74 Synthesis of novel helically twisted anti-1,2-areno[2.n]metacyclophanes	Tatsunori Saisyo, Tohru Hironaka, Mikiko Shiino and Takehiko Yamato	J. Chem. Research	2006	661-663
Perfluorinated sulfonic acid resin (Nafion-H) catalysed trans- <i>tert</i> -butylation of 7- <i>tert</i> -butyl-1,3-disubstituted pyrenes. A new route for the preparation of 1,3-disubstituted pyrenes	T. Yamato and J. Hu	J. Chem. Research	2006	762-765

Oxo- and Imidovanadium Complexes incorporating Methylene- and Dimethylene- oxa-Bridged Calix[3]- and -[4]arenes: Synthesis, structures and Ethylene Polymerisation Catalysis	C. Redshaw, M. Rowan, L. Warford, D. M. Homden, A. Arbaoui, M. R. J. Wisegood, S. H. Dale, T. Yamato, C. Pérez-Casas, S. Matsui and S. Matsuura	Chem. Eur. J.	2007	13, 1090-1107
Synthesis and structure of a 1,3- <i>alternate</i> -thiacalix[4]arene diamide derivative	T. Yamato, C. Pérez-Casas, S. Rahman, Z. Xi, M. R. J. Elsegood and C. Redshaw	J. Incl. Phenom.	2007	58,193-197
Medium-size cyclophanes, 75 Synthesis of <i>anti</i> -[2.3]metacyclophan-1-ene and conversion to <i>syn</i> -1,2-epoxy[2.3]metacyclophane	T. Saisyo, M. Shiino, T. Hironaka and T. Yamato	J. Chem. Research	2007	?
Synthesis and inclusion properties of a novel double thiacalix[4]arene having (<i>N,N</i> -diethylaminocarbonyl)methoxy group	C. Pérez-Casas, S. Rahman, Z. Xi and T. Yamato	J. Incl. Phenom.	2007	?
Synthesis and inclusion properties of 1,3- <i>alternate</i> -bis[(ethoxycarbonyl)-methoxy]thiacalix[4]arene-mono(crown-4) ether	C. Pérez-Casas, S. Rahman, Z. Xi and T. Yamato	J. Chem. Research	2007	76-78
Polymer Assisted Change in Chirality of J-aggregate 5,10,15,20-tetrakis (4-sulfonatophenyl)porphyrin (H ₂ TPPS)	Masaaki Tabata, Kohei Funaki, Natterkarn Wangfuenkanagul, Orawon Chailapakul	J. Porphyrin and Phthalocyanines	2006	10, 510
Direct and Convenient Synthesis of [Bis(trifluoroacetoxy)iodo]arenes from Iodoarenes	Md. D. Hossain, T. Kitamura	Bull. Chem. Soc. Jpn	2006	79, 142-144
Efficient generation and trapping of acylbenzynes from hypervalent iodine compounds	T. Kitamura, Y. Aoki, S. Isshiki, K. Wasai, Y. Fujiwara	Tetrahedron Lett.	2006	47, 1709-1712
Alternative, Easy and Efficient Preparation of Poly[4-(diacetoxyiodo)styrene] from Poly(4-iodostyrene) Using Sodium Perborate as the Oxidant	Md. D. Hossain, T. Kitamura	Synthesis	2006	1253-1256
Synthesis of coumarins by Pt-catalyzed hydroarylation of propiolic acids with phenols	J. Oyamada, T. Kitamura	Tetrahedron	2006	62, 6918-6925
Reaction of iodoarenes with potassium peroxodisulfate/trifluoroacetic acid in the presence of aromatics. Direct preparation of diaryliodonium triflates from iodoarenes	Md. D. Hossain, T. Kitamura	Tetrahedron	2006	62, 6955-6960
Direct, easy, and scalable preparation of (diacetoxyiodo)arenes from arenes using potassium peroxodisulfate as the oxidant	Md. D. Hossain, T. Kitamura	Tetrahedron Lett.	2006	47, 7889-7891

Thermodynamic studies of dodecylpyridinium ion binding to humic acid and effect of solution parameters on their binding	M. M. Yee, T. Miyajima, N. Takisawa	Colloid Surf. A : Physicochem. Eng. Asp.	2007	295, 61–66
Thermal Properties and Mixing State of Ethylene Glycol–Water Binary Solutions by Calorimetry, Large–Angle X–ray Scattering, and Small–Angle Neutron Scattering	M. Matsugami, T. Takamuku, T. Otomo, T. Yamaguchi	J. Phys. Chem. B	2006	110, 12372–12379
Alkali Chlorides–Induced Phase Separation of Acetonitrile–Water Mixtures Studied by Small–Angle Neutron Scattering	T. Takamuku, Y. Noguchi, E. Yoshikawa, T. Kawaguchi, M. Matsugami, T. Otomo	J. Mol. Liquids,	2007	131/132, 131–138
Bis[2–[2–(hydroxymethyl)phenyliminomethyl]phenolato] cobalt(III) nitrate monohydrate	M. Muto, N. Nakagawa, M. Koikawa, T. Tokii	Acta Crystallog	2007	E63, 64–66
Syntheses, structures, and reactivities of novel binuclear ruthenium(II) complexes with bis(m–phosphinato) bridges	K. Koga, Y. Yamada, M. Koikawa, and T. Tokii	J. Coord. Chem.	2006	60, 143–151
Preparation of a Novel Broom Phthalamic Acid Extractant and the Extraction Behavior of Rare Earth Metals	T. Nakamura, K. Ohto, T. Oshima, K. Inoue	Solv. Extr. Res. Dev., Jpn	2006	13, 89–99
Adsorption of rare earth metal ions on novel tripodal broom methylcarbamoylmethoxy acetic acid impregnated resin	T. Nakamura, K. Ohto, T. Oshima, K. Inoue	Ars Sep. Acta	2006	4, 27–36
Extractive separation of rare earth ions by using calix[4]arene with isopropyl hydrogen phosphonate at upper rim	K. Ohto, T. Yamasaki, K. Inoue	Ars Sep. Acta	2006	4, 96–106
Preparation of Submicrometer–sized Titania Hollow Spheres by Templating Sulfonated Polystyrene Latex Particles	A. Syoufian, Y. Inoue, M. Yada, K. Nakashima	Materials Lett	2007	61,1572–1575
Photocatalytic Activity of Titania Hollow Spheres: Photodecomposition of Methylene Blue as a Target Molecule	A. Syoufian, O. H. Satriya, and K. Nakashima	Catalysis Commun.	2007	8, 755–759
Synthesis of Silica Hollow Nano–particles Templated by Polymeric Micelles with Core–Shell–Corona Structure	A. Khanal, Y. Inoue, M. Yada, K. Nakashima	J. Am. Chem. Soc.	2007	129, 1534–1535
Facile synthesis of (S)–5,5–Difluoronorleucine and its incorporation in biologically active peptides as a methionine mimetic	S. Osada, T. Ishimaru, H. Kawasaki, and H. Kodama	Heterocycles	2006	67, 421–431
Ion channel activities and mechanisms of ion conduction about cyclic hexapeptides	J. Taira, R. Hayashi, S. Osada, T. Ehara and H. Kodama	Peptides: Understanding Biology Using Peptides	2006	607–608

Synthesis and biological activities of proline rich cyclic heptapeptide Hymemanide B analogs	Y. Shiki, J. Taira, A. Nakamura, S. Osada and H. Kodama	Peptides: Understanding Biology Using Peptides	2006	609-610
Synthesis and biological activities of fMLP analogs containing 2, 3-cyclopropane amino acid derivatives	D. Sugiyama, R. Hayashi, H. Kawasaki, H. Kodama, S. Osada, M. Zaitso and I. Fujita	Peptides: Understanding Biology Using Peptides	2006	613-614
Synthesis of transmembrane peptides derived from human formyl peptide receptor and influence on biological activities of human neutrophils	R. Hayashi, D. Sugiyama, M. Yoshiki, S. Osada, I. Fujita, Y. Hamasaki and H. Kodama	Peptide Science 2005	2006	241-244
Effect of ring size alteration for ion channel activities of cyclic peptides	J. Taira, S. Osada, M. Jelokhani-Niaraki, T. Ehara and H. Kodama	Peptide Science 2005	2006	245-248
Signal transduction of chemotactic non-formyl peptide and selective for formyl peptide receptor	M. Yoshiki, R. Hayashi, D. Sugiyama, S. Osada, I. Fujita, Y. Hamasaki and H. Kodama	Peptide Science 2005	2006	249-252
Superoxide production in human neutrophils is enhanced by treatment of transmembrane peptides derived from human formyl peptide receptor	R. Hayashi, S. Osada, M. Yoshiki, D. Sugiyama, I. Fujita, Y. Hamasaki and H. Kodama	J. Biochem.	2006	139, 981-988
The effects of extra Li content, synthesis method, sintering temperature on synthesis and electrochemistry of layered $\text{LiNi}_{1/3}\text{Mn}_{1/3}\text{Co}_{1/3}\text{O}_2$	L. Zhang, X. Wang, T. Muta, D. Li, H. Noguchi, M. Yoshio, R. Ma, K. Takada, T. Sasaki	J. Power Sources	2006	162, 629-635
High temperature electrochemical behaviors of ramsdellite $\text{Li}_2\text{Ti}_3\text{O}_7$ and its Fe-doped derivatives for lithium ion batteries.	S. Ma, H. Noguchi	J. Power Sources	2006	162, 1297-1301
Improved electrochemical performance of LiFePO_4 by increasing its specific surface area.	Y. Xia, M. Yoshio, H. Noguchi	Electrochimica Acta	2006	52, 240-245
The improved physical and electrochemical performance of $\text{LiNi}_{0.35}\text{Co}_{0.3-x}\text{Cr}_x\text{Mn}_{0.35}\text{O}_2$ cathode materials by the Cr doping for lithium ion batteries.	Y. Sun, Y. Xia, H. Noguchi	J. Power Sources	2006	159, 1377-1382
The preparation and electrochemical performance of solid solutions $\text{LiCoO}_2\text{-Li}_2\text{MnO}_3$ as cathode materials for lithium ion batteries.	Y. Sun, Y. Shiosaki, Y. Xia, H. Noguchi	J. Power Sources	2006	159, 1353-1359
Preparation and characterization of layered $\text{LiNi}_{1/3}\text{Mn}_{1/3}\text{Co}_{1/3}\text{O}_2$ as a cathode material by an oxalate co-precipitation method.	T-H. Cho, Y. Shiosaki, H. Noguchi	J. Power Sources	2006	159, 1322-1327

The preparation and electrochemical properties of LiCoO ₂ -LiNi _{0.5} Mn _{0.5} O ₂ -Li ₂ MnO ₃ solid solutions with high Mn contents	Y. Sun, Y. Shiosaki, Y. Xia, H. Noguchi	Electrochimica Acta	2006	52, 5581-5586
Correlation of oxygen deficiency with discharge capacity at 3.2 V for (LiMn) ₃ O _{4-z}	M. Yoshio, H. Noguchi, H. Wang, X. Wang	J. Power Sources	2006	154, 273-275
Improvement in electrochemical performance of an orthorhombic LiMnO ₂ -yXy at high temperature	A.K. Thapa, H. Nakamura, H. Noguchi, M. Yoshio	ITE Letters	2007	
Silicon/graphite composites as an anode material for lithium ion batteries.	M. Yoshio, T. Tsumura, N. Dimov	Journal of Power Sources	2006	163, 215-218
Electrochemical behaviors of silicon based anode material.	M. Yoshio, S.Kugino, N. Dimov	Journal of Power Sources	2006	153, 375-379
Intraspecific variations and phylogenetic relationships of steinernematids isolated from Japan based on the sequences of the ITS region of the nuclear rRNA gene and the partial mitochondrial CO I gene	Kuwata R, Shigematsu M, Yoshiga T, Yoshida M, Kondo E	Japanese Journal of Nematology	2006	36, 11-21
Phylogenetic analyses of Japanese steinernematid nematodes and Xenorhabdus bacteria	Kuwata R, Shigematsu M, Yoshiga T, Yoshida M, Kondo E	Japanese Journal of Nematology	2006	36, 75-85
新規の脂肪酸組成を持つダイズ油の突然変異による改良	高木 胖、穴井 豊昭	オレオサイエンス	2006	(6) 195-203
Hemiphragma heterophyllum の組織培養と二次代謝物生産	森暁美、藤岡稔大、吉田都、穴井豊昭、石丸幹二	日本食品化学学会誌	2006	(13) 29-34
Comparison of Regeneration Efficiency of Different Genotypes of Indica Rice Cultivars	Abayawickrama ASMT, Anai T	Bulletin of the Faculty of Agriculture, Saga University	2006	(92) 17-23
Insect cytokine, growth-blocking peptide, is a primary regulator of melanin-synthesis enzymes in armyworm larval cuticle.	Ninomiya Y, Hayakawa Y	FEBS J.	2007	274, 1768-1777
A rapid method for protein extraction from fission yeast.	松尾祐児、浅川和英、登田隆、片山諭	Biosci. Biotechnol. Biochem.	2006	70(8)
Isomer-specific anti-obese and hypolipidemic properties of conjugated linoleic acid in obese OLETF rats.	Wang Y.M., K. Nagao, N. Inoue, Y. Ujino, Y. Shimada, T. Nagao, T. Iwata, T. Kamegai, Y. Yamauchi-Sato, T. Yanagita	Biosci. Biotechnol. Biochem.	2006	70, 355-362
Mechanisms of black and white stripe pattern formation in the cuticles of insect larvae.	Ninomiya, Y., Tanaka, K. and Hayakawa, Y.	J. Insect Physiol.	2006	52, 638-645.

学術論文（鍋島）

論文タイトル	論文著者(学生:赤字)	掲載雑誌	掲載年	巻号頁
Comparative analyses of genomic imprinting and CpG island-methylation in mouse Murr1 and human MURR1 loci revealed a putative imprinting control region in mice.	Zhang Z, Joh K, Yatsuki H, Wang Y, Arai Y, Soejima H, Higashimoto K, Iwasaka T, Mukai T	Gene	2006	366: 77-86
Histological analyses of normally grown, fertile Apaf1-deficient mice.	Okamoto H, Shiraishi H, Yoshida H	Cell Death Differ.	2006	13: 668-671
Assembly properties in vitro of nuclear lamin A mutants in which the head domain is deleted stepwise from the N-terminus.	Isobe K, Gohara R, Ueda T, Takasaki Y, Ando S	Peptide Science 2005	2006	461-464
Visceral fat accumulation and insulin resistance are important factors in nonalcoholic fatty liver diseases.	Eguchi Y, Eguchi T, Mizuta T, Ide Y, Yasutake T, Iwakiri R, Hisatomi A, Ozaki I, Yamamoto K, Kitajima Y, Kawaguchi Y, Kuroki S, Ono N	J. Gastroenterol.	2006	41: 462-469
Apoptotic pathway in the rat small intestinal mucosa is different between fasting and ischemia-reperfusion.	Fujise T, Iwakiri R, Wu B, Amemori S, Kakimoto T, Yokoyama F, Sakata Y, Tsunada S, Fujimoto K	Am. J. Physiol.	2006	291: G110-G116
The effect of menatetrenone, a vitamin K2 analog, on recurrence and survival in patients with hepatocellular carcinoma after curative treatment	Mizuta T, Ozaki I, Eguchi Y, Yasutake T, Kawazoe S, Fujimoto K, Yamamoto K	A pilot study. Cancer	2006	106: 867-872
T-cell deficiency responses to liver carcinogenesis in rats.	Wu B, Ootani A, Sakata Y, Fujise T, Amemori S, Yokoyama F, Tsunada S, Toda S, Iwakiri R, Fujimoto K	J. Exp. Biol.	2006	231: 91-98
ビタミン K2 による肝癌再発の抑制.	水田敏彦	肝胆膵	2006	53: 889-894
ビタミン K の抗癌作用.	水田敏彦	Medical Science Digest	2006	32: 165-167
肝細胞癌とビタミン K.	水田敏彦, 尾崎岩太	Pharma Medica	2006	
Involvement of programmed cell death 4 in transforming growth factor- β 1-induced apoptosis in human hepatocellular carcinoma.	Zhang H, Ozaki I, Mizuta T, Hamajima H, Yasutake T, Eguchi Y, Ideguchi H, Yamamoto K, Matsuhashi S	Oncogene	2006	25: 6101-6112

Direct imaging of bileaflet mechanical valve behavior in the tricuspid position.	Ikeda K, Okazaki Y, Furukawa K, Ohtsubo S, Yunoki J, Natsuaki M, Itoh T	Eur. J. Cardiothorac. Surg.	2006	29: 1014-1019
Proposed mechanism for amitriptyline neurotoxicity based on its detergent nature.	Kitagawa N, Oda M, Nobutaka I, Sato H, Totoki T, Morimoto M	Toxicology and Applied Pharmacology	2006	217: 100-106
食物・生薬に含まれるチトクローム P450 阻害活性を有するフラノクマリン類—グレープフルーツ以外にも注意を—.	齋田哲也	九州山口薬学会会報	2006	60: 9 - 18
酵素免疫測定法による食物・生薬中のフラノクマリン類含量のスクリーニング.	齋田哲也, 藤戸 博	医療薬学	2006	32: 693 - 699
Antifibrotic effects of hepatocyte growth factor on scleroderma fibroblasts and analysis of its mechanism.	Sheriff-Tadano R, Ohta A, Morito F, Mitamura M, Haruta Y, Koarada S, Tada Y, Nagasawa K, Ozaki I.	Mod. Rheumato	2006	16: 364-371
Meperidine-induced muscular rigidity during spinal anesthesia?	Kitagawa N, Oda M, Totoki T	Anesthesia and Analgesia	2006	103: 490-491
A proposed mechanism for amitriptyline neurotoxicity based on its detergent nature.	Kitagawa N, Oda M, I Nobutaka, Satoh H, Totoki T, Morimoto M	Toxicology and Applied Pharmacology	2006	217: 100-106
Does atropine reduce the risk of propofol-induced cardiovascular depression?	Kitagawa N, Katoku M, Kasahara T, Tsuruta T, Oda M, Totoki T	Anesthesia and Analgesia	2006	103: 1606-1608
Macrophage elastase (MMP-12) accelerates the progression of atherosclerosis in transgenic rabbits.	Liang J, Liu E, Yu Y, Kitajima S, Koike T, Jin Y, Morimoto M, Watanabe T, Hatakeyama K, Asada Y, Sasaguri Y, Watanabe S, Fan J	Circulation	2006	113: 1993-2001

学会発表（本庄）

発表タイトル	発表者(学生:赤字)	発表大会	発表年
N-メチル-4-トリフルオロメチル-5-スタニルピラゾールの反応	江頭幹朗, 花本猛士	第16回福岡シンポジウム	2006
Carbonylative cross-coupling reaction of 4-fluoro-5-stannylpyrazole	花本猛士, 末竹貴雄	The18th ISFC - International Symposium on Fluorine Chemistry	2006
Synthesis and reactions of N-methyl-4-trifluoromethyl-5-stannylpyrazole	江頭幹朗, 花本猛士	The18th ISFC - International Symposium on Fluorine Chemistry	2006
立体規則性を有するアルキルチオフェンオリゴマーの合成と光学特性	権藤勝一, 江良正直	第53回応用物理学会学術講演会	2006

立体規則性を有するアルキルチオフェンオリゴマーおよびそのコポリマーの合成と光学特性	権藤勝一、江良正直	第 55 回高分子学会年次大会	2006
Preparation of regioregular oligothiophenes and their optical and electrical properties	Shoichi Gondo, Masanao Era	2006 the 10 th INTERNATIONAL SYMPOSIUM On Advanced Display Materials and Devices	2006
キャリア輸送性発色団を中心骨格とした液晶分子の合成	河野慎司、江良正直	第 43 回化学関連九州支部大会	2006
Regioregular オリゴチオフェンの合成	権藤勝一、江良正直	第 43 回化学関連九州支部大会	2006
Preparation of regioregular alkylthiophene oligomers and their electrical properties	Shoichi Gondo, Yasuyuki Gotou, and Masanao Era	Korea-Japan Joint Forum 2006 -Organic Materials for Electronics and Photonics-	2006
ヘキサホモトリオキサリックス[3]アレーンを基体とするアッモニウムイオンレセプターの合成	Shofiur Rahman、永富喜治、大和武彦	日本化学会第 86 回春季年会	2006
ヘキサホモトリオキサリックス[3]アレーンの <i>o</i> -アルキル化に及ぼす鑄型効果	Shofiur Rahman、大和武彦、藤岡克嘉、池田篤志、菊池純一	日本化学会第 86 回春季年会	2006
ルテニウム(II) 錯体を利用するカリックスアレーンダイマーの創製	藤岡克嘉、池田篤志、菊池純一、Shofiur Rahman、大和武彦	日本化学会第 86 回春季年会	2006
ホモカリックスアレーン類の合成・構造特性及び金属錯体形成反応	瀧本将志、大和武彦	日本化学会第 86 回春季年会	2006
新規カリックス[3]ベンゾフランの合成・構造および反応性	宮崎稔、大和武彦	日本化学会第 86 回春季年会	2006
シクロファンを基体とする蛍光性物質の合成とスペクトル特性	上野隆治、Jian-yong Hu、大和武彦	日本化学会第 86 回春季年会	2006
三架橋シクロファン類の合成と構造特性	加藤利佳、宮本慎平、大和武彦	日本化学会第 86 回春季年会	2006
4,5,9,10-テトラ置換ピレン誘導体の選択的合成とスペクトル特性	Jian-yong Hu、上野隆治、大和武彦	日本化学会第 86 回春季年会	2006
カリックス[3]ベンゾフラン誘導体の合成と構造特性	上野隆治、宮崎 稔、大和武彦	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
イミダゾール置換ヘキサホモトリオキサリックス[3]アレーンの合成と包接挙動	瀧本将志、Shofiur Rahman、大和武彦	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
三架橋シクロファン類の合成とその構造特性	加藤利佳、宮本慎平、大和武彦	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
Selective synthesis and spectral properties of 4,5,9,10-tetrasubstituted pyrene derivatives	Jian-Yong Hu, 上野隆治, 大和武彦	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
Synthesis of alkylammonium ion receptors based on hexahomotrioxacalix[3]arenes	Rahman Shofiur, 瀧本将志, 大和武彦	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
カリックス[3]ベンゾフラン誘導体の合成と構造特性	上野隆治、宮崎 稔、大和武彦	第 18 回基礎有機化学連合討論会	2006

三架橋シクロファン-1,9-ジエン類の合成・構造及びスペクトル特性	加藤利佳、宮本慎平、大和武彦	第 18 回基礎有機化学連合討論会	2006
ホモカリクスアレーン類の合成と構造特性及び金属錯体形成	瀧本将志、Shofiur Rahman、大和武彦	第 18 回基礎有機化学連合討論会	2006
ダイトピックレセプターとしての特性を有するヘキサホモトリオキサカリクス[3]アレーントリアセティックアシッド誘導体の合成	Shofiur Rahman、大和武彦	第 18 回基礎有機化学連合討論会	2006
Synthesis, inclusion properties of ditopic receptors derivatives from hexahomotrioxacalix[3]arene triacetic acid	Shofiur Rahman, Takehiko Yamato	The 4 th Japan (Saga U) and Korea (PNU) Joint Meeting on Chemistry Functionalized Chemical Materials	2006
カリクス[3]ベンゾフラン誘導体の合成と構造特性	上野隆治、宮崎 稔、大和武彦	2006 年日本化学会西日本大会	2006
新規ホモカリクスアレーン類の合成と構造特性及び金属錯体形成	瀧本将志、Rahman Shofiur、大和武彦	2006 年日本化学会西日本大会	2006
三架橋シクロファン-1,9-ジエンの合成と構造特性	加藤利佳、田中彰吾、宮本慎平、大和武彦	2006 年日本化学会西日本大会	2006
シッフ塩基部位を有するカリクスアレーン類縁体の金属錯体形成反応と構造特性	瀧本将志、宮本慎平、大和武彦	2006 年日本化学会西日本大会	2006
シクロファンエン類を基体とするヘリセン型分子の合成・構造及びスペクトル特性	弘中徹、加藤利佳、大和武彦	2006 年日本化学会西日本大会	2006
チアカリクス[4]アレーンを基体とするダイトピックレセプターの合成と包接挙動	Shofiur Rahman、Carol Pérez-Casas、大和武彦	第 21 回シクロファン研究会	2006
テトラホモジオキサカリクス[4]アレーン類の合成・構造特性及び金属錯体形成	瀧本将志、大和武彦	日本化学会第 87 回春季年会	2006
ヘキサホモトリオキサカリクス[3]アレーンを基体とするダイトピックレセプターの合成	Shofiur Rahman、田原 淳、大和武彦	日本化学会第 87 回春季年会	2006
4,5,9,10-テトラ置換ピレン誘導体の選択的合成とスペクトル特性	Jian-yong Hu、大和武彦	日本化学会第 87 回春季年会	2006
三架橋シクロファン類の合成と構造特性	加藤利桂、田中彰吾、弘中徹、大和武彦	日本化学会第 87 回春季年会	2006
新規カリクス[3]ベンゾフランの合成・構造および反応性	上野隆治、大和武彦	日本化学会第 87 回春季年会	2006
ベンゾフランノシクロファンの合成および構造特性	田中彰吾、加藤利桂、弘中徹、大和武彦	日本化学会第 87 回春季年会	2006
ヘキサホモトリオキサカリクス[3]アレーンを基体とするダイトピックレセプターの合成	田原淳、瀧本将志、Shofiur Rahman、大和武彦	日本化学会第 87 回春季年会	2006
チアカリクス[4]アレーンを基体とするダイトピックレセプターの合成と包接挙動	吉澤明菜、Shofiur Rahman、大和武彦	日本化学会第 87 回春季年会	2006
カリクスサロフェン型大環状化合物の金属二核錯体の合成および構造特性	瀧本将志、宮本 慎平、大和武彦	日本化学会第 87 回春季年会	2006
Niobium and Tantalum-based Ethylene Polymerization Catalysts bearing Methylene or Dimethyleneoxa bridged Calixarene Ligands	C. Redshaw, M. Rowan, D. M. Homden, M. R. J. Elsegood, T. Yamato, C. Pérez-Casas	ACS Spring National Meeting	2006

Polymer Assisted Change in Chirality of J-aggregate 5,10,15,20-tetrakis(4-sulfonatophenyl)porphyrin (H ₂ TPPS)	Masaaki Tabata, Kohei Funaki, Natterkarn Wangfuenkanagul, Orawon Chailapakul	Fourth International Conference on Porphyrins and Phthalocyanines	2006
水溶性ポルフィリン集合体の光学活性の自在制御(2)—高分子化合物と金属イオンの効果—	田端正明、舟木耕一、Wangfuenkanagul Nattarkarn	第56回錯体化学討論会	2006
¹⁷ O-NMR Studies on Relaxation of Free and Bound Water Molecules to Nickel(II) Ion in Mixed Solvents of Water and 2-Propanol	Masaaki Tabata	9 th Eurasia Conference on Chemical Sciences	2006
白金触媒存在下、フェノールとプロピオール酸の反応によるクマリンの合成	小山田重蔵、北村二雄	日本化学会第86春季年会	2006
ヨードアレーンの簡便ジアセトキシル化反応とその応用	Md. Delwar Hossain, 北村二雄	日本化学会第86春季年会	2006
[ビス(トリフルオロアセトキシ)ヨード]アレーンの簡便合成	Md. Delwar Hossain, 北村二雄	日本化学会第86春季年会	2006
Efficient diacetoxylation of iodoarenes by using potassium peroxodisulfate and sodium perborate as oxidant	北村二雄、Md. Delwar Hossain	The 2nd International Conference on Hypervalent Iodine Chemistry	2006
白金触媒によるプロピオール酸及びフェノールからクマリンの合成	小山田重蔵、北村二雄	第43回化学関連支部合同九州大会	2006
Pt(II)-catalyzed reaction of propiolates with thiophenes	Mory Laye Keita, 小山田重蔵, 北村二雄	第43回化学関連支部合同九州大会	2006
白金触媒を用いるポリマーへの官能基導入法の開発	橋本拓也、小山田重蔵、北村二雄	第43回化学関連支部合同九州大会	2006
ベンザイン発生における超原子価ヨウ素化合物とジプロモアレーンの比較	野村那津子、北村二雄	第43回化学関連支部合同九州大会	2006
Direct preparation of diaryliodonium triflates from iodobenzenes	Md. Delwar Hossain, 北村二雄	第43回化学関連支部合同九州大会	2006
Double Thiophenylation in Pt-Catalyzed Reaction of Thiophenes with Ethyl Propiolate	Mory Laye Keita, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	The 22nd International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur	2006
白金触媒によるヒドロアリアル化反応を用いるポリスチレン類の官能基導入	橋本拓也、井口尚美、小山田重蔵、北村二雄	第53回有機金属化学討論会	2006
白金触媒を用いるピロールによるアルキンのヒドロアリアル化反応	小山田重蔵、北村二雄	第53回有機金属化学討論会	2006
超原子価ヨウ素化合物の簡便合成法の開発	北村二雄、Md. Delwar Hossain	第9回ヨウ素利用研究国際シンポジウム	2006
Pt-Catalyzed Hydroarylation of Alkynes with Pyrroles	Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	The 4th Japan and Korea Joint Meeting on Chemistry	2006
Direct, Easy and Scalable Synthesis of Diaryliodonium Triflates from arenes with Potassium Peroxodisulfate as the Oxidant	Md. Delwar Hossain, Tsugio Kitamura	The 4th Japan and Korea Joint Meeting on Chemistry	2006
Pt(II) Catalyzed reaction of Propiolates with thiophenes	Mory Laye Keita, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	The 4th Japan and Korea Joint Meeting on Chemistry	2006

Application of Pt-Catalyzed Hydroarylation to Polystyrenes	Takuya Hashimoto, Naomi Iguchi, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	The 4th Japan and Korea Joint Meeting on Chemistry	2006
Comparison of Hypervalent Iodine Compound with Dibromoarenes in Generation of Benzyne	Natsuko Nomura, Tsugio Kitamura	The 4th Japan and Korea Joint Meeting on Chemistry	2006
Synthesis of Biodiesel Fuel from Soap Stock	Chihiro Abe, Tsugio Kitamura	The 4th Japan and Korea Joint Meeting on Chemistry	2006
Selective Alkynylation of Benzotriazole using Alkynylodonium Salts	Satoru Tsukada, Yuki Miyazaki, Daisuke Inoue, Tsugio Kitamura	The 4th Japan and Korea Joint Meeting on Chemistry	2006
Alkenylation of Thiophenes in the Reaction with Alkynes	Tomohiro Mizuhara, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	The 4th Japan and Korea Joint Meeting on Chemistry	2006
Application of Pt-Catalyzed Hydroarylation to Polystyrenes	Tsugio Kitamura, Takuya Hashimoto, Naomi Iguchi, Juzo Oyamada	第 13 回国際有機化学京都会議 (IKCOC-10)	2006
Pt-Catalyzed Reaction of Propiolates with Pyrroles	Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	第 13 回国際有機化学京都会議 (IKCOC-10)	2006
白金触媒を用いるピロールによるアルキンのヒドロアリアル化反応	小山田重蔵、北村二雄	第 36 回複素環化学討論会	2006
芳香族化合物とヨウ素から超原子価ヨウ素化合物の簡便合成法	Md. Delwar Hossain、北村二雄	第 33 回有機典型元素化学討論会	2006
アルキルヨードニウム塩とベンゾトリアゾールイオンの反応による置換ベンゾトリアゾール誘導体の生成	塚田学、宮崎由紀、井上大輔、北村二雄	第 33 回有機典型元素化学討論会	2006
アルキンとの反応によるチオフェン類のアルケニル化反応	水原智浩、小山田重蔵、北村二雄	第 33 回有機典型元素化学討論会	2006
白金系触媒によるヒドロアリアル化反応を用いる高効率分子変換反応の開発	北村二雄	文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「炭素資源の高度分子変換」第 2 回公開シンポジウム	2006
ヨウ素の有効利用を目指した新規ヨウ素化反応の開発	北村二雄	第 9 回連携大学院産学官交流セミナー	2006
生活廃棄物(食用油・プラスチック)の再資源化	北村二雄	第 1 回佐賀環境フォーラム・佐賀大学研究プロジェクト合同講演会	2006
芳香族化合物とヨウ素からジアリールヨードニウム塩の直接合成法の開発	Md. Delwar Hossain、北村二雄	日本化学会第 87 春季年会	2006
K ₂ PtCl ₄ /AgOTf 触媒を用いるヘテロアレーンによるアルキンのヒドロアリアル化	小山田重蔵、北村二雄	日本化学会第 87 春季年会	2006
チオフェンとアルキンの反応によるチオフェンのアルケニル化	水原智浩、小山田重蔵、北村二雄	日本化学会第 87 春季年会	2006
白金触媒によるチオフェンとプロピオール酸類の反応におけるダブルヒドロアリアル化反応	Mory Laye Keita、小山田重蔵、北村二雄	日本化学会第 87 春季年会	2006
アルキルヨードニウム塩とベンゾトリアゾールの反応における位置選択性	塚田学、北村二雄	日本化学会第 87 春季年会	2006

白金触媒によるポリスチレンブロック共重合体のアルケニル化	橋本拓也、小山田重蔵、北村二雄	日本化学会第 87 春季年会	2006
白金触媒によるポリスチレンのアルケニル化	井口尚美、小山田重蔵、北村二雄	日本化学会第 87 春季年会	2006
The Effects of 2,2,2-Trifluoroethanol on the Micelle Formation of Ionic Surfactants	S. Ueda, N. Takisawa	The 4th Japan and Korea Joint Meeting on Chemistry	2006
Characterization of non-colored river water humic substances	H. Kodama, S. Nagao, N. Fujitake, M. Fukushima, N. Fukazawa, N. Hiromatsu, H. Kudoh, Y. Matsunami, T. Miyajima	Interfaces against pollution,	2006
Spectrophotometric titration for fukvic acids extracted from soil and water	H. Kodama, T. Miyajima	the 13 th meeting of International Humic Substances Society, Karsruhe, Germany,	2006
Complexation equilibrium analyses in the presence of ion-exchangers	M. Kamachi, T. Miyajima	International Symposium on Ion Exchange in Korea(2006),	2006
An interpretation of Co ²⁺ /SCN ⁻ complexation in the presence of cation-exchange resin	T. Miyajima, J. Aihara, M. Kamachi	International Symposium on Ion Exchange in Korea(2006),	2006
廃棄物焼却残渣主体の埋立地における腐植物質の特性化	李 政準、島岡隆行、宮島徹	日本腐植物質学会 第22回講演会	2006
アルコール-水混合溶液中におけるジオール分子の溶媒和構造	田中美穂、迫琢之典、高椋利幸	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
LAXS, NMR および MD 法によるイオン液体の構造に関する研究	教正院康裕、副島靖史、藤井健太、藤森崇夫、神崎亮、梅林泰宏、石黒慎一、山口敏男、高椋利幸	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
アルコール-水混合溶液中における有機分子に対する溶媒和の解明	田中美穂、迫琢之典、竹内宗孝、高椋利幸	第 29 回溶液化学シンポジウム	2006
イオン液体中における水分子の挙動	教正院康裕、副島靖史、山口敏男、高椋利幸	第 29 回溶液化学シンポジウム	2006
分子レベルでみるイミダゾリウム系イオン液体の構造	高椋利幸、副島靖史、教正院康裕、藤井健太、藤森崇夫、神崎 亮、梅林泰宏、石黒慎一、山口敏男	第 29 回溶液化学シンポジウム	2006
SANS 法で観測したアルコールクラスターによる両親媒性分子の溶媒和	高椋利幸、田中美穂、迫琢之典、竹内宗孝	中性子科学会第 6 回年会	2006
五座シッフ塩基配位子による三核バナジウム(V)錯体の合成、構造、電気化学的性質	武藤誠浩、鯉川雅之、時井直	錯体分子素子研究センター「無機有機複合材料創出の為に錯体分子素子の研究」2006年シンポジウム	2006
不完全ダブルキューバン型金属コアを有する混合原子価四核コバルト錯体の構造と磁気的性質	平田一寛、武藤誠浩、鯉川雅之、崎山博史、御厨正博、時井 直	第 56 回錯体化学討論会	2006
非対称型四座キレート配位子による Mn(III)錯体の合成と反応性	江崎 立、宮原孝裕、鯉川雅之、山田泰教、時井 直	第 56 回錯体化学討論会	2006

非対称型キレート配位子による Mn(III)及び Fe(III)錯体の合成と反応性	宮原孝裕, 鯉川雅之, 時井直	2006 年日本化学会西日本大会	2006
ホスフィナト三重架橋二核銅(II)錯体の合成と構造	越智史人, 佐藤勝輝, 山田泰教, 鯉川雅之, 時井直	第 56 回錯体化学討論会	2006
2,2'-ジピリジルアミンを配位子とするカルボキシラト架橋オキソバナジウム(IV)二核錯体の合成と性質	稗田大輔, 山田泰教, 鯉川雅之, 時井直	第 56 回錯体化学討論会	2006
ジフェニルホスフィン酸とその誘導体を架橋基に用いた二核マンガン(II)錯体の合成と性質	佐藤勝輝, 山田泰教, 鯉川雅之, 時井直	第 56 回錯体化学討論会	2006
エーテル-酢酸交差型カリックス[4]アレーンによる鉛(II)イオンの抽出	大渡啓介・吉武亜寿紗・池田朱里・大島達也, 井上勝利	化学工学会第 71 年会	2006
4級アンモニウム塩型カリックス[4]アレーン誘導体による希土類金属の抽出分離	石井啓明, 大渡啓介, 井上勝利, 原田浩幸, 川喜田英孝	第43回化学関連支部合同九州大会	2006
アミン型ホウキ分子による Mo、V、W の抽出分離挙動	古郷宏明, 大渡啓介, 井上勝利, 原田浩幸, 川喜田英孝	第43回化学関連支部合同九州大会	2006
p-t-オクチルフェノキシカルボン酸誘導体による希土類金属の抽出に及ぼす NA 添加効果	花村知宏, 大渡啓介, 井上勝利, 原田浩幸, 川喜田英孝	第43回化学関連支部合同九州大会	2006
4 級アンモニウム塩型カリックス[4]アレーン誘導体による希土類金属の抽出分離	石井啓明, 大渡啓介, 川喜田英孝, 原田浩幸, 井上勝利	化学工学会九州支部若手の会	2006
カリックス[4]アレーンテトラ酢酸誘導体による鉛(II)抽出に及ぼすパラ位アルキル基の効果	金光将樹, 大渡啓介, 井上勝利, 川喜田英孝, 原田浩幸	化学工学会九州支部若手の会	2006
テトラホスホン酸型カリックス[4]アレーンの合成と希土類金属の抽出特性	武富昭人, 大渡啓介, 井上勝利, 川喜田英孝	化学工学会九州支部若手の会	2006
アミン型ホウキ分子による Mo,V,および W の抽出分離挙動	古郷宏明, 大渡啓介, 井上勝利, 川喜田英孝, 原田浩幸	化学工学会九州支部若手の会	2006
p-t-オクチルフェノキシカルボン酸誘導体による希土類金属の抽出に及ぼす Na 添加効果	花村知宏, 大渡啓介, 原田浩幸, 川喜田英孝, 井上勝利	化学工学会九州支部若手の会	2006
エーテル型アルキルトリメチロール化合物を認識素子とするリチウム選択性電極の開発	大渡啓介, 氷室絢子, 中村隆秀, 川喜田英孝, 原田浩幸, 井上勝利	化学工学会第 38 回秋季大会	2006
カリックス[4]アレーンを基体としたホスホン酸系抽出剤の合成と希土類金属の抽出特性	武富昭人, 大渡啓介, 川喜田英孝, 井上勝利	化学工学会第 38 回秋季大会	2006
アミン型ホウキ分子による Mo,V,W の抽出分離挙動	古郷宏明, 大渡啓介, 井上勝利, 川喜田英孝, 原田浩幸	化学工学会第 38 回秋季大会	2006

Lithium ion selective electrode based on ether type of tripodal compound	Keisuke Ohto, Ayako Himuro, Hirotaka Higuchi, Takahide Nakamura , Hidetaka Kawakita, and Katsutoshi Inoue	日本イオン交換学会	2006
Synthesis of calix[4]arene with phosphonic acid and extraction specificity of rare earth metals	Akihito Takedomi , Keisuke Ohto, Hidetaka Kawakita and Katsutoshi Inoue	日本イオン交換学会	2006
Effect of alkyl branch at upper rim of calix[4]arene tetraacetic acid derivative on lead (II) extraction	Masaki Kanemitsu , Keisuke Ohto, Hidetaka Kawakita, Hiroyuki Harada, Katsutoshi Inoue	日本イオン交換学会	2006
鉛抽出に及ぼすカリックス[4]アレーンカルボン酸のpara位アルキル鎖の影響	大渡啓介、金光将樹、川喜田英孝、原田浩幸、井上勝利	化学工学会九州支部大会	2006
ホウキ型分子を用いたホウ素の抽出挙動	武富昭人、中村隆秀、大渡啓介、川喜田英孝、井上勝利、大島達也	溶媒抽出学会	2006
アミン型ホウキ分子による Mo,W,V の抽出分離挙動	古郷宏明 , 大渡啓介,井上勝利,川喜田英孝,原田浩幸	溶媒抽出学会	2006
Preparation of lithium ion selective electrode based on tripodal ether compound	Keisuke Ohto, Ayako Himuro, Hirotaka Higuchi, Takahide Nakamura , Hidetaka Kawakita, Hiroyuki Harada, Katsutoshi Inoue	JTK 化学工学国際会議	2006
Synthesis of calix[4]arene with phosphonic acid and extraction specificity of rare earth metals	Akihito Takedomi , Keisuke Ohto, Hidetaka Kawakita and Katsutoshi Inoue	第 19 回化学工学に関する国際シンポジウム九州	2006
カルボン酸-ピリジル交差型カリックス[4]アレーンによる金属の抽出	田中雄大 、武富昭人、大渡啓介、川喜田英孝、原田浩幸、井上勝利	化学工学会学生発表会	2006
ローワーリムにホスホン酸を有するカリックス[4]アレーンの金属抽出特性	大渡啓介、武富昭人、川喜田英孝、原田浩幸、井上勝利	化学工学会第 72 年会	2006
Preparation of submicrometer-sized titania hollow spheres by templating sulfonated polystyrene latex particles and their application to photocatalytic decomposition of methylene blue	A. Syoufian , Y. Inoue, M. Yada, O. H. Satriya, K. Nakashima	16 th International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy	2006
Fabrication of nanoaggregates of <i>triple hydrophilic block copolymers</i> by binding of ionic surfactants	A. Khanal, S. Yusa, Kenichi Nakashima	IUPAC International Symposium on Advanced Polymers for Emerging Technologies	2006

Photocatalytic activity of titania hollow spheres: photodecomposition of methylene blue as a target molecule	K. Nakashima	The 4 th Japan (Saga U) and Korea (PNU) Joint Meeting on Chemistry	2006
非対称トリブロック共重合体から形成される高分子ミセルの特性解析とその応用	中島謙一、Anil Khanal, Yuan Li	2006 年度日本化学会西日本大会	2006
中空二酸化チタン微粒子の合成と光触媒活性	中島謙一、Akhmad Syoufian	第 25 回固体・表面光化学討論会	2006
蛍光ラベルペプチドを用いたレセプターの光架橋	林 良、杉山大輔、柴田大介、長田聰史、大庭英樹、安田誠二、兒玉浩明	第 8 回連携大学院産学官交流セミナー	2006
受容体機能を調節するホルミルペプチド受容体由来膜貫通ペプチドの合成	林 良、杉山大輔、長田聰史、藤田一郎、浜崎雄平、兒玉浩明	日本化学会第 86 春季年会	2006
抗腫瘍性環状ペプチド yunnanins の合成と性質	中村綾、志岐康弘、長田聰史、兒玉浩明	日本化学会第 86 春季年会	2006
非加水分解性フルオロアルケンを有するグルコシルアスパラギンミミックの合成研究	長田聰史、兒玉浩明	日本化学会第 86 春季年会	2006
非天然アミノ酸含有人工イオンチャンネルペプチドへの機能性ドメインの組み込みとその効果	平 順一、渋江光邦、長田聰史、頼原嗣尚、兒玉浩明	2006 年度日本生化学会九州支部例会	2006
ホルミルペプチド受容体由来ペプチドによる好中球のブライミング	林 良、杉山大輔、長田聰史、藤田一郎、浜崎雄平、兒玉浩明	2006 年度日本生化学会九州支部例会	2006
Effect of synthetic peptides derived from formyl peptide receptor on superoxide anion production in human neutrophils	R. Hayashi, D. Sugiyama, M. Yoshiki, S. Osada, I. Fujita, Y. Hamasaki, and H. Kodama	20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, and 11th FAOBMB Congress	2006
イオンチャンネルペプチドデザインを目的とした機能性コア配列の検討	平 順一、長田聰史、頼原嗣尚、兒玉浩明	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
脱感作法を用いたホルミルペプチド受容体サブタイプの識別	杉山大輔、林 良、吉木政弘、長田聰史、兒玉浩明、藤田一郎、浜崎 雄平	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
好中球エラスターゼ放出の評価と阻害剤の研究	志岐康弘、平 順一、長田聰史、兒玉浩明	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
Aib-Pro 配列を含むペプチドの固相合成法の検討	伊東純子、志岐康弘、長田聰史、兒玉浩明	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
遊走ペプチド fMLP の C 末端修飾におけるスペーサーの効果	柴田大介、杉山大輔、林良、長田聰史、兒玉浩明、藤田一郎、浜崎雄平	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
トロポエラスチンの架橋配列を持つモデルペプチドの合成と性質	鶴田知子、志岐康弘、長田聰史、兒玉浩明、前田衣織、岡元孝二	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
非加水分解性フルオロアルケンを利用した HDAC 阻害剤の合成研究	佐野 聡、長田聰史、兒玉浩明	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006
ファルネシルトランスフェラーゼ阻害を目的した含硫アミノ酸ミミックの合成	長田聰史、池上実佐、兒玉浩明	第 43 回化学関連支部合同九州大会	2006

Synthesis and Structural Properties of Cross-linked Amphiphilic Helix Peptides Containing Unusual Amino Acid	H. Kodama, J. Taira , S. Osada, T. Ehara	20th Symposium of The Protein Society	2006
異常アミノ酸含有ヘリックスペプチドの擬似的二量化とイオンチャンネル活性	平 順一 、長田聰史、舘原嗣尚、兒玉浩明	第18回若手研究者のためのセミナー	2006
Comparison study of ion channel activities of homo-dimerized and hetero-dimerized amphiphilic helical model peptides	J. Taira , S. Osada, M. Jelokhani-Niaraki, T. Ehara and H. Kodama	International Conference of 43rd Japanese Peptide Symposium and 4th Peptide Engineering Meeting	2006
Synthesis of FPR-derived transmembrane peptides containing photoaffinity amino acid	D. Sugiyama , R. Hayashi, S. Osada, I. Fujita, Y. Hamasaki and H. Kodama	International Conference of 43rd Japanese Peptide Symposium and 4th Peptide Engineering Meeting	2006
種々のβターン構造を有する環状ペプチドのイオンチャンネル活性	平 順一 、長田聰史、舘原嗣尚、兒玉浩明	2006年日本化学会西日本大会	2006
短鎖ペプチド cerivin 類の合成と酸処理の安定性	伊東純子 、 平 順一 、長田聰史、加藤富民雄、兒玉浩明	2006年日本化学会西日本大会	2006
疎水性アミノ酸を含む環状ペプチドの好中球への作用	志岐康弘 、 平 順一 、長田聰史、兒玉浩明	2006年日本化学会西日本大会	2006
架橋トロポエラスチン前駆体の合成と生体イオンとの相互作用	鶴田知子 、 志岐康弘 、長田聰史、前田衣織、岡元孝二、兒玉浩明	2006年日本化学会西日本大会	2006
遊走ペプチド fMLP の C 末端修飾と生物活性	柴田大介 、杉山大輔、林良、長田聰史、藤田一郎、兒玉浩明	2006年日本化学会西日本大会	2006
光架橋剤を導入したホルミルペプチド受容体由来ペプチドの合成と性質	杉山大輔 、林良、長田聰史、藤田一郎、兒玉浩明	2006年日本化学会西日本大会	2006
フルオロアルケン構造を利用した HDAC 阻害剤の合成研究	佐野 聡 、長田聰史、兒玉浩明	2006年日本化学会西日本大会	2006
プロリンを含む短鎖ペプチドの類の合成とイオンチャンネル活性	伊東純子、 平順一 、長田聰史、加藤富民雄、兒玉浩明	日本化学会第87春季年会	2006
受容体膜貫通ペプチドの合成と好中球活性化	杉山大輔 、柴田大介、藤田一郎、浜崎雄平、長田聰史、兒玉浩明	日本化学会第87春季年会	2006
イオンチャンネル構造体の構築制御を目指したヘリックスペプチド二量体の合成と生物活性	平 順一 、長田聰史、Jelokhani-Niaraki Masoud、舘原嗣尚、兒玉浩明	日本化学会第87春季年会	2006
異種金属ドーブスピネルの酸素欠損量と高温サイクル特性の関係	夏永高 、野口英行、中村博吉、芳尾真幸	第47回電池討論会	2006
ラムデライトタイプの二酸化マンガンの合成とその熱処理物のリチウム電池特性	野口英行、 川口賢一 、小川雅明	第47回電池討論会	2006
斜方晶 Nb ₂ O ₅ へのリチウムのインターカレーション	江口貴士 、磯野健一、中村博吉、野口英行	第43回化学関連支部合同大会	2006

アニリン系添加剤を含む電解液を用いるリチウムイオン電池正極特性	池田青仁、中村博吉、野口英行、芳尾真幸	第43回化学関連支部合同大会	2006
炭素負極上に有機添加剤が形成する導電性皮膜に関する考察	野口英行、P.R. Ghimire、中村博吉、芳尾真幸	電気化学会第73回大会	2006
Improved electrochemical performance of LiMnPO ₄ by spray dry method	H. Noguchi、Y. Xia	210 th Meeting of the Electrochemical Society	2006
Efficient in vivo DNA cloning of multiple DNA fragments.	Iizasa E, Takao S, Kudo T, Harada T, Nagano Y	20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress.	2006
植物ベクターのための飯笹法(新しいDNAクローニング法)—飯笹法のその後—	飯笹英一	第30回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	2006
プロバイオティクスの標的である Toll 様受容体 9 の生化学的解析	工藤隆大、高尾省子、飯笹英一、永野幸生	第60回日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会	2006
パン酵母多断片連結法による多遺伝子発現ベクターの構築	原田哲郎、松本亮司、永野幸生	第60回日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会	2006
トマトの受容体 BRI1/SR160 におけるシステムインとブラシノライド結合部位は異なる	飯笹英一、高尾省子、工藤隆大、渡邊啓一、永野幸生	日本農芸化学会 2007 年度大会	2007
ヒト Toll 様受容体 9 の生化学的解析	工藤隆大、高尾省子、飯笹英一、永野幸生	日本農芸化学会 2007 年度大会	2007
シロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 (AtLBP) の大腸菌由来 LPS との結合活性	武藤さやか、小原潤、福留健司、永野幸生	日本農芸化学会 2007 年度大会	2007
植物育種に適用可能な特定遺伝子破壊システムの簡便な検出法	永野 幸生、高尾 省子、穴井 豊昭	日本農芸化学会 2007 年度大会	2007
Aspergillus fumigatus 由来エキソ-β-グルコサミニダーゼ遺伝子のクローニング	高祖奈々恵、関 清彦、光富 勝	日本生物工学会九州支部鹿児島大会	2006
Streptomyces griseus 由来 family 5 キトサナーゼの大腸菌による発現	大久保貴史、岩崎純也、田邊俊朗、徳安 健、関 清彦、光富 勝	平成18年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部および日本農芸化学会西日本支部合同大会	2006
特異的プライマーを用いた PCR による Halicephalobus 属線虫の検出	吉賀豊司	第14回日本線虫学会	2006
昆虫病原性線虫と共生細菌の相互依存的共生関係	吉賀豊司	第7回昆虫病理研究会シンポジウム	2006
日本産 Heterorhabditis 属線虫-Photorhabdus 属細菌の分子系統解析と二者培養実験	鎌田龍星	第7回昆虫病理研究会シンポジウム	2006
Recent research on EPN and its application technology in Japan	Yoshiga T	Summit Workshop COST ACTION 850	2006
ダイズ貯蔵脂質の分子育種を目指して	穴井豊昭	アグリテクノ21研究会	2006
ダイズ脂肪酸生合成突然変異体とその原因遺伝子	穴井豊昭	ダイズ遺伝資源研究会	2006
ダイズ貯蔵脂質の代謝工学を目指した新たな生物資源の開発	穴井豊昭	植物脂質シンポジウム	2006

南極産好冷細菌由来酢酸キナーゼの 大腸菌による発現と酵素学的性質	岩崎翔平、Md. Abul Kas hem Tang、生田淳也、田上潤、本島浩之、渡邊啓一	日本農芸化学会西日本支部および日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部合同大会	2006
Subtilisin の β 8- β 9 ストランド間ターンにおける P209G 変異により低温活性が上昇する	久堀剛資、生田淳也、瀧田直樹、本島浩之、渡邊啓一	日本農芸化学会大会	2007
subtilisin Carlsberg の Ser97 における変異が活性に及ぼす影響	瀧田直樹、生田淳也、久堀剛資、本島浩之、渡邊啓一	日本農芸化学会西日本支部および日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部合同大会	2006
好冷細菌 Pseudoalteromonas sp. AS-131 由来ピルビン酸キナーゼの発現・精製及び酵素学的性質	生田淳也、本島浩之、渡邊啓一	日本農芸化学会大会	2007
分裂酵母におけるユビキチン・プロテアソーム系を介したタンパク質品質管理機構の解析	松尾祐児、片山諭、川向誠	日本農芸化学会大会	2007
ユビキチン・プロテアソーム経路を介したタンパク質の品質管理機構	松尾祐児、中川強、片山諭、川向誠	イーストワークショップ	2006
ミヤコグサの ABA 関連変異体における共生能	鈴木章弘	植物微生物研究会	2006
ABA 関連変異体の共生窒素固定能	鈴木章弘	ダイズ研究会	2006
ミヤコグサの phyB 変異体における共生能	Lalith Suriyagoda	日本植物学会九州支部会	2006
リノール酸メンチルエステルの生理作用に関する研究	井上奈穂、永尾晃治、荒尾恵介、坂田幸太郎、安田紀美子、岩田敏夫、柳田晃良	日本農芸化学会 2006 年度大会、京都	2006
大豆タンパク質由来脂質低下ペプチドの検索	井上奈穂、永尾晃治、坂田幸太郎、松井利郎、中森俊宏、古田均、高松清治、柳田晃良	第 60 回日本栄養・食糧学会大会、静岡	2006
栄養生理機能を持つ大豆タンパク質由来ペプチド配列の検索	坂田幸太郎、井上奈穂、永尾晃治、松井利郎、中森俊宏、古田均、高松清治、柳田晃良	第 43 回化学関連支部合同九州大会、北九州	2006
ポルフィランが HepG2 細胞の脂質代謝に及ぼす影響	井上奈穂、坂田幸太郎、山野尚美、濱洋一郎、永尾晃治、柳田晃良	日本農芸化学会 2007 年度大会、東京	2007

学会発表（鍋島）

発表タイトル	発表者(学生:赤字)	発表大会	発表年
Different incidence of epigenetic and genetic alterations between Japanese and Caucasian patients with Beckwith-Wiedemann syndrome.	Soejima H, Sasaki K, Higashimoto K, Joh K, Niikawa N, Mukai T	11th International Congress of Human Genetics	2006
Beckwith-Wiedemann 症候群本邦例の包括的解析.	副島英伸, 佐々木健作, 東元 健, 新川詔夫, 向井常博	日本人類遺伝学会第 51 回大会	2006

Different incidence of some epigenetic and genetic alterations between Japanese and Caucasian patients with Beckwith-Wiedemann syndrome.	Soejima H, Sasaki K, Higashimoto K, Yatsuki H, Joh K, Niikawa N, Mukai T	International Genomic Imprinting Workshop 2006	2006
MGMT 発現抑制のエピジェネティックな分子メカニズム.	副島英伸, 矢ヶ部伸也, 工藤伸一, 中尾光善, 向井常博	第 65 回 日本癌学会学術総会	2006
がんにおける MGMT 発現抑制のエピジェネティクス.	副島英伸, 趙衛, 矢ヶ部伸也, 工藤伸一, 中尾光善, 向井常博	日本人類遺伝学会第 51 回大会	2006
The critical role of IL-27/WSX-1 in the induction of experimental autoimmune uveitis.	Yoshida H, Yoshimura T, Ishibashi T, Hamano S, Sonoda K-H	Keystone symposia, Tolerance, autoimmunity and Immune regulation	2006
Augmentation of antigen-presenting and Th1-promoting function of dendritic cells by WSX-1 (IL-27R)-deficiency.	Yoshida H, Wang S, Miyazaki Y	Cytokine	2006
STAT3 is responsible for IL-27/WSX-1-mediated suppression of cytokine production by activated T cells.	Yoshimura T, Miyazaki Y, Yoshimura A, Yoshida H	Cytokine	2006
Interleukin-17 plays roles in successful resolution of <i>Trypanosoma cruzi</i> .	Shimano Y, Wang S, Iwakura Y, Yoshida H	Cytokine	2006
抗原提示能の更新した WSX-1(IL-27R)欠損樹状細胞を用いた抗腫瘍効果増強効果の検討.	篠崎由賀里, 宮崎耕治, 吉田裕樹	日本癌学会学術集会	2006
The role of IL-27/WSX-1 (IL-27R) in experimental allergic rhinitis.	Shimano Y, Wang S, Miyazaki Y, Yoshida H	第 36 回 日本免疫学会学術集会	2006
Interleukin-17 play roles in successful resolution of <i>Trypanosoma cruzi</i> infection.	Miyazaki, Y. Shimano, S. Wang, Y. Iwakura and H. Yoshida	第 36 回 日本免疫学会学術集会	2006
IL-27/WSX-1 is a negative regulator of LPS-induced macrophage activation.	王森, 宮崎義之, 島ノ江洋平, 吉田裕樹	第 36 回 日本免疫学会学術集会	2006
NK 細胞の機能における Carma1/Bcl10 を介するシグナルの役割.	原博満, 齊藤隆	第 36 回 日本免疫学会総会・学術総会	2006
プラナリアがもつ中間径フィラメント蛋白質の組織特異的発現と機能.	松永賢一郎, 甲本真也, 穴井豊昭, 松橋幸子, 高井成幸, 高崎洋三, 安藤祥司	第 6 回 日本蛋白質科学会年会	2006
原子間力顕微鏡によるピメンチン中間径フィラメントの力学的安定性の評価.	安藤祥司, 松崎武経, 中尾賢一朗, 郷原るみ, 高崎洋三, 大石祐司	第 6 回 日本蛋白質科学会年会	2006
プラナリアがもつ中間径フィラメント蛋白質の組織特異的発現と機能.	甲本真也, 松永賢一郎, 穴井豊昭, 松橋幸子, 高井成幸, 高崎洋三, 安藤祥司	平成 18 年度 日本生化学会九州支部例会	2006
Tissue-specific expression and function of the intermediate filament protein Djf-1 in the flatworm <i>Dugesia japonica</i> .	Komoto S, Matsunaga K, Matsuhashi S, Anai T, Takai M, Takasaki Y, Ando S	20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB congress	2006

プラナリアがもつ中間径フィラメント蛋白質の組織特異的発現と機能.	甲本真也、松永賢一郎、穴井豊昭、松橋幸子、高井成幸、高崎洋三、安藤祥司	第 43 回 化学関連支部合同九州大会	2006
Probing the morphology and the mechanical stability of vimentin intermediate filaments by atomic force microscopy.	Ando S, Matsuzaki T, Nakao K, Gohara R, Takasaki Y, Oishi Y	20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB congress.	2006
Role of the aromatic residues of the sequence motif SSSYRRXFGG of vimentin in intermediate filament formation <i>in vitro</i> .	Gohara R, Takasaki Y, Ando S	20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB congress.	2006
原子間力顕微鏡によるビメンチン中間径フィラメントの力学的安定性の評価.	松崎武経、中尾賢一郎、大石祐司、郷原るみ、高崎洋三、安藤祥司	第 43 回 化学関連支部合同九州大会	2006
Crystal structural analysis of HindIII restriction endonuclease in complex with cognate DNA at 2.0 Å resolution.	Sato C, Watanabe N, Takasaki Y, Tanaka I	第5回 アジア生物物理学シンポジウム (兼第44回生物物理学学会年会)	2006
ビメンチン中間径フィラメントの形態と力学的安定性の解析.	安藤祥司、中尾賢一郎、松崎武経、郷原るみ、高崎洋三、大石祐司	第 33 回 水晶体研究会.	2006
脂肪細胞と前脂肪細胞は大腸癌細胞の増殖能を亢進させる.	雨森貞弘、大谷顕史、藤瀬剛弘、坂田資尚、下田 良、大谷 響、山口加奈子、網田誠司、坂田祐之、岩切龍一、藤本一真	第 48 回 日本消化器病学会大会	2006
摂食行動に関連する中枢神経系の小腸粘膜アポトーシスに及ぼす影響.	藤本一真	第 5 回 日本神経消化器病学会.	2006
食物・プロバイオティクスによる消化管疾患の予防と治療.	藤瀬剛弘、岩切龍一、藤本一真	第2回 日本消化管学会総会学術集会.	2006
大腸発癌と脂肪酸・酸化ストレス.	藤瀬剛弘、岩切龍一、藤本一真	第 92 回 日本消化器病学会総会	2006
Increase in carcinogenesis induced by beef tallow and corn oil through Wnt/beta-catenin signaling pathway is attenuated by fish oil and olive oil in the azoxymethane-induced rat colon cancer model.	Fujise T, Iwakiri R, Kakimoto T, Shiraishi R, Sakata Y, Wu B, Tsunada S, Ootani A, Fujimoto K	14th UEGW	2006
Effects of dietary fatty acid composition on rat colon carcinogenesis.	Fujise T, Kakimoto T, Shiraishi R, Yamaguchi K, Amemori S, Sakata Y, Tsunada S, Iwakiri R, Fujimoto K	107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association	2006
Effect of bilateral ventromedial hypothalamus lesions on mucosal apoptosis and proliferation in the rat small intestine.	Fujise T, Sakata H, Sakata Y, Tsunada S, Iwakiri R, Fujimoto K	16th International Symposium on Regulatory Peptides	2006

非消化体物質摂取によるラット小腸粘膜アポトーシスの制御.	柿本隆志、藤瀬剛弘、横山史恵、山口加奈子、雨森貞弘、坂田資尚、大谷 響、下田 良、綱田誠司、岩切龍一、藤本一眞	第2回 日本消化管学会総会学術集会.	2006
Suppression of intestinal mucosal apoptosis and enhancement of cell proliferation induced by indigestible material during fasting in the rat intestinal mucosa.	Kakimoto T, Fujise T, Shiraishi R, Shimoda R, Ootani H, Sakata Y, Tsunada S, Iwakiri R, Fujimoto K	16th International Symposium on Regulatory Peptides	2006
Mitogen-activated protein kinase pathway partly regulated differentiation of gastric surface mucous cells with air liquid interface.	Kakimoto T, Yokoyama F, Sakata Y, Ootani A, Fujise T, Tsunada S, Iwakiri R, Fujimoto K	12th International Conference on Ulcer Research.	2006
Air-liquid interface による胃表層粘液細胞の分化誘導には古典的 MAPK 経路が一部関与している.	坂田資尚、大谷顕史、横山史恵、藤瀬剛弘、綱田誠司、坂田祐之、岩切龍一、緒方伸一、藤本一眞	第 48 回 日本消化器病学会大会	2006
中性脂肪の吸収は Zucker 肥満ラットで亢進する.	綱田誠司、野田隆博、藤本一眞	第 48 回 日本消化器病学会大会	2006
古典的 MAPK 経路の胃表層粘液細胞分化への関与.	横山史恵、坂田資尚、大谷顕史、雨森貞弘、藤瀬剛弘、綱田誠司、岩切龍一、藤本一眞	第2回 日本消化管学会総会学術集会	2006
Inhibition of transforming growth factor- β 1-induced apoptosis and smad signaling by extracellular matrix through β 1-integrin.	Hamajima H, Nakashima M, Mizuta T, Eguchi Y, Yasutake T, Matsuhashi S, Fujimoto K, Ozaki I	107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute	2006
Inhibition of transforming growth factor- β -induced apoptosis and Smad signaling by extracellular matrix through β 1-integrin.	Hamajima H, Nakashima M, Mizuta T, Eguchi Y, Yasutake T, Matsuhashi S, Fujimoto K, Ozaki I	Annal Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases	2006
Inhibition of transforming growth factor- β -induced apoptosis and Smad signaling by extracellular matrix through β 1-integrin.	Hamajima H, Nakashima M, Mizuta T, Eguchi Y, Yasutake T, Matsuhashi S, Fujimoto K, Ozaki I	20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress	2006
Modulation of transforming growth factor-beta1-induced apoptosis and Smad signaling by beta1-integrin in human hepatoma cells.	Hamajima H, Nakashima M, Mizuta T, Eguchi Y, Yasutake T, Matsuhashi S, Fujimoto K, Ozaki I	The 16th International Symposium on Regulatory Peptides	2006
Vitamin K2 の肝癌細胞における MMP 発現抑制とその機序.	井手康史	第 9 回 Vitamin K & Aging 研究会.	2006
Mechanisms of TGF- β 1 induced apoptosis of Huh7 hepatoma cells through PDCD4 tumor suppressor.	Matsuhashi S, Hamajima H, Nakashima M, Ozaki I, Mizuta T, Fujimoto K	20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress	2006
TGF-beta 1 による肝癌細胞のアポトーシス誘導シグナル伝達経路.	松橋幸子、尾崎岩太、浜島弘史、中島麻友美、水田敏彦、江口有一郎、安武努	第 15 回 日本アポトーシス研究会学術集会	2006

Signal transduction pathway of transforming growth factor-beta1-induced apoptosis in Huh7 hepatoma cells.	Matsuhashi S, Ozaki I, Hamajima H, Nakashima M, Mizuta T, Eguchi Y, Yasutake T, Fujimoto K	The 16th International Symposium on Regulatory Peptides	2006
PKCによる癌抑制遺伝子 PDCD4 の発現と極在性の調節.	中島麻友美, 浜島弘史, 水田敏彦, 松橋幸子, 藤本一真, 尾崎岩太	日本分子生物学会 2006 フォーラム	2006
S-phase specific suppression of PDCD4 tumor suppresser in the cell cycle of HeLa cells.	Ozaki I, Kakimoto T, Nakashima M, Hamajima H, Mizuta T, Fujimoto K, Matsuhashi S	20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11 th FAOBMB Congress	2006
ビタミン K2による肝癌細胞増殖抑制作用の分子機構.	尾崎岩太, 水田敏彦, 張浩, 井手康史, 江口有一郎, 安武努, 山本匡介	第 42 回日本肝臓学会総会	2006
Vitamin K2 enhances 5-fluorouracil-induced growth inhibition of human hepatocellular carcinoma cells through inhibition of IKK/NF-kappaB/cyclin D1 activation.	Ozaki I, Zhang H, Ide Y, Eguchi Y, Yasutake T, Mizuta T, Yamamoto K	AASLD 57th Annual Meeting	2006
肝癌細胞の増殖に対する Vitamin K2 と抗癌剤の併用に関する基礎的検討.	尾崎岩太, 張浩, 井手康史, 江口有一郎, 安武努, 水田敏彦, 山本匡介	第 9 回 Vitamin K & Aging 研究会	2006
血清中 DNA メチル化の高感度検出法の確立.	光野真由美, 北島吉彦, 井出貴雄, 大高和真, 神谷尚彦, 宮崎耕治	第 65 回 日本癌学会学術総会	2006
胆嚢及び胆道癌細胞株を用いた Gemcitabine 感受性マーカーの検討.	大高和真, 神谷尚彦, 北島吉彦, 井手貴雄, 光野真由美, 宮崎耕治	第 106 回 日本外科学会定期学術集会	2006
胆道癌細胞株における Gemcitabine 感受性マーカーの検討.	大高和真, 神谷尚彦, 北島吉彦, 井手貴雄, 光野真由美, 宮崎耕治	第 92 回 日本消化器病学会総会	2006
胆嚢及び胆管癌細胞株を用いた Gemcitabine 及び白金製剤に対する感受性マーカーの検討.	大高和真, 神谷尚彦, 北島吉彦, 井手貴雄, 光野真由美, 宮崎耕治	第 65 回 日本癌学会学術総会	2006
胆嚢及び胆道癌細胞株を用いた Gemcitabine 及び白金製剤に対する感受性マーカーの検討.	大高和真, 神谷尚彦, 北島吉彦, 井手貴雄, 光野真由美, 宮崎耕治	第 48 回 日本消化器病学会大会	2006
OPCAB 手術手技が僧帽弁形態へ与える影響の解析.	古賀秀剛, 岡崎幸生, 片岡浩海, 池田和幸, 古川浩二郎, 大坪 諭, 伊藤 翼	第 59 回 日本胸部外科学会定期学術集会	2006
心臓外科手術の長時間大動脈遮断例に対する Nicorandil の再灌流障害軽減効果.	岡崎幸生, 財部京実, 伊藤 翼	第 19 回 ニコランジル研究会シンポジウム	2006
Inhibition of transforming growth factor-b-induced apoptosis and Smad signaling by extracellular matrix through b1-integrin.	Hamajima H, Zhang H, Nakashima M, Mizuta T, Eguchi Y, Yasutake T, Fijimoto K, Ozaki I	Digestive Disease Week 2006	2006
細胞外マトリックス受容体インテグリンを介した肝癌細胞の増殖制御.	尾崎岩太, 浜島弘史, 中島麻友美, 張浩, 松橋幸子, 江口有一郎, 安武努, 水田敏彦, 藤本一真	第 14 回 浜名湖シンポジウム	2006

Vitamin K2 augments 5-fluorouracil-induced growth inhibition of human hepatocellular carcinoma cells by inhibiting NF-kappa B activation.	Ozaki I, Zhang H, Mizuta T, Ide Y, Eguchi Y, Yasutake T, Yamamoto K.	57th Annual meeting of American Association for the Study of Liver diseases	2006
Minimal ropivacaine concentration causing irreversible neural injury in spinal anesthesia model rat.	北川範仁、小田万友子、森本正敏、十時忠秀	第 53 回 日本麻酔学会	2006
ウサギ移植胚の 4°C 保存による仮親との同期化に関する検討.	北嶋修司, 劉 恩岐, 中西陽子, 森本正敏, 渡辺照男, 範 江林	第 53 回 日本実験動物学会総会	2006
ヒト apo(a)トランスジェニック WHHL ウサギにおける Lp(a)の冠動脈硬化促進.	北嶋修司, 金 英姫, 小池智也, 于瑩, 劉 恩岐, 塩見雅志, 森本正敏, 渡辺照男, 範 江林	第 38 回 日本動脈硬化学会総会	2006
ヒト apo(a)トランスジェニック WHHL ウサギにおける Lp(a)の冠動脈硬化促進.	北嶋修司, 金 英姫, 小池智也, 于瑩, 劉 恩岐, 塩見雅志, 森本正敏, 渡辺照男, 範 江林	第 11 回 Lp(a)カンファレンス	2006
動脈硬化病変の C 反応性蛋白 - その由来と病態生理学的重要性.	小池智也、北嶋修司、森本正敏、渡辺照男、浅田祐士郎、畠山金太、範江林	第 95 回 日本病理学会総会	2006
MMP-12 は Tg ウサギの大動脈瘤の形成を促進させる.	小池智也, 北嶋修司, 于 瑩, 森本正敏, 範 江林	第 38 回 日本動脈硬化学会総会	2006
動脈硬化研究におけるウサギモデルの有用性—新規危険因子 C 反応性蛋白の機能解析.	小池智也, 塩見雅志, 畠山金太, 北嶋修司, 森本正敏, 渡辺照男, 浅田祐士郎, 範 江林	第 2 回フォーラム「医療に貢献する実験用ウサギの新しい展開」	2006
凍結融解後のウサギ精子運動率に及ぼす冷却速度の影響について.	前田達弘, 劉 恩岐, 詫 廣茂信, 北嶋修司, 森本正敏	第 24 回 九州実験動物研究会	2006
Increased expression of VEGF in kidney impaires glomerular functions in transgenic rabbits.	劉 恩岐、北嶋修司、森本正敏、小池智也、Yu Ying、長田道夫、渡辺照男、範 江林	第 95 回 日本病理学会総会	2006
補体成分 C6 欠損ウサギの海外からの凍結精子による導入.	劉 恩岐, 北嶋修司, Kurt Reifenberg, 森本正敏, 渡辺照男, 範江林	第 2 回フォーラム「医療に貢献する実験用ウサギの新しい展開」	2006
ウサギモデルを用いた動脈硬化における MMP 発現様式の検討.	于 瑩, 小池智也, 北嶋修司, 森本正敏, 塩見雅志, 範 江林	第 53 回 日本実験動物学会総会	2006
Upregulation of MMP-1, -3, -12, and -13 is associated with atherosclerotic lesions.	Yu Y, Koike T, Kitajima S, Morimoto M, Shiomi M, Fan J	The XIV International symposium on atherosclerosis	2006
MMP-1, -3, -12, -13 の発現が動脈硬化病変において増加していた.	于 瑩, 小池智也, 北嶋修司, 塩見雅志, 森本正敏, 範 江林	第 38 回 日本動脈硬化学会総会	2006

H18 年度にセンターを利用して得られた業績は

著書：16 件

学術論文：89 件

学会発表：267 件 である。

センターを利用して得た外部資金
本庄地区

氏名	研究費の名目	プロジェクト名	期間	H18年度の獲得金額(千円)	代表・分担
大和武彦	科研費基盤研究(C)	メタシクロファン-1-エンを構成単位とするヘリセン型分子の合成と光化学的特性	H18	2,300	代表
大和武彦	キャンオン共同研究費	有機発光ダイオード用の燐光材料の開発	H18	2,000	代表
田端 正明	科学研究費(萌芽)	ポルフィリン J-集合体の光学活性の自在制御と分析化学的研究	H18	1,700	代表
北村二雄	科研費特定領域研究	白金系触媒によるヒドロアリアル化反応を利用する高効率分子変換プロセスの開発	H18	1,800	代表
野口英行	共同研究 日立製作所	新規リチウムイオン伝導高分子用ドーパンドープ電極材の開発	H18	1,000	代表
野口英行	(独)新エネルギー・産業技術研究機構	ナノ複合体を利用するハイレート対応新規リチウムイオン電池の要素技術の開発	H18	7,987	代表
野口英行	(独)科学技術振興機構 研究成果活用プラザ 福岡	高性能マンガンオリビン系リチウムイオン電池正極材料の開発	H18	2,000	代表
野口英行	ジェイアンドスミス	有機酸溶液「J's ACID」に関する研究、開発	H18	420	代表
中島謙一	科研費基盤 C	コア-シェル-コロナ型高分子ミセルを鋳型とする中空無機微粒子の合成とその応用	H17-H19	800	代表
中島謙一	科研費特別研究員奨励費	ABC型トリブロック共重合体ミセルを鋳型とする中空金属ナノ粒子の合成	H17-H19	1,200	代表
鈴木章弘	タカノ農芸化学研究助成	共生窒素固定能を強化した新規植物創成のための基礎研究	H18	500	代表
鈴木章弘	加藤記念研究助成	マメ科植物の根粒着生に及ぼす光シグナルの影響	H18-H20	2000	代表
吉賀豊司	受託研究	昆虫病原性線虫の共生細菌の機能評価と液体培養系の開発	H16-H18	2,400	代表
吉賀豊司	科研費(若手B)	昆虫病原性線虫およびその共生細菌の分子系統解析と共生メカニズムの解明	H17-H18	1,000	代表
川上竜巳	農芸化学研究奨励金	超好熱アーキアの α β γ δ 型色素依存性脱水素酵素複合体の機能解析とX線結晶構造解析	H18	500	代表

片山諭	科研費(若手B)	ユビキチンリガーゼ変異体を利用した高感度真核生物 Ames 試験の開発のための研究	H17-H18	700	代表
松尾祐児 (指導教員: 片山諭)	笹川科学研究助成	分裂酵母におけるユビキチン・プロテアソーム経路を介したタンパク質の品質管理機構に機能する遺伝子のスクリーニング	H18	800	代表
早川洋一	科研費(基盤B)	昆虫サイトカインレセプターの構造と細胞内情報伝達系因子の解析	H18-H21	6240	代表
早川洋一	科研費(萌芽)	寄生バチによる寄生を用いた昆虫食欲中枢調節機構の解析	H17-H18	1700	代表
渡邊啓一	科研費(基盤B)	南極産好冷生物酵素の構造進化と低温活性発現機構及びそのタンパク質工学的利用	H15-H18	2,500	代表
永野幸生	科研費(基盤C)	ロイシンリッチリピートをもつ受容体のリガンド結合部位の大腸菌での発現技術の活用	H17-H18	1400	代表
穴井豊昭	科研費基盤C	酵母相同組換え系を用いたダイズ遺伝子破壊系統の作出と逆遺伝学的応用	H17-H18	1200	代表
穴井豊昭	(独)農業生物資源研究所ジーンバンク事業	ダイズ脂肪酸組成の評価と新規アッセイ系を用いた脂肪酸不飽和化酵素遺伝子群の多様性についての解析	H18-H20	2000	代表
穴井豊昭	受託研究	突然変異を用いた納豆用大豆の白目化	H18	2500	代表
永尾晃治	科研費(若手B)	モデル動物を用いたメタボリックシンドロームの発症機作解明と食環境による予防と改善	H18-19	2,200	代表

鍋島地区

氏名	研究費の名目	プロジェクト名	期間	H18年度の獲得金額(千円)	代表・分担
岡崎幸生	科研費(基盤)	心拍動下冠動脈バイパス術における冠動脈への影響の形態学的・分子生物学的解析	H17-H18	1600	代表
森本正敏	科研費(基盤)	C 反応性蛋白トランスジェニックウサギを用いた動脈硬化の発生機序の解明	H17-H18	1,200	代表
中島幹夫	中期計画実行経費 医学部研究者育成支援事業	メシル酸ガベキサートによる難治性皮膚潰瘍発生のメカニズム解明と予防法の確立	H18	1032	代表
長澤浩平	科研費(基盤C)	B 細胞上の RP105 分子の総合解析 - 自己免疫疾患における機能から創薬まで -	H18	2200	代表

長澤浩平		自己免疫疾患患者由来 RP105 陰性 B 細胞の膜上に特異的に発現する分子の同定と当該細胞の自己免疫疾患発症における役割に関する研究	H18	1950	代表
長澤浩平	厚労省科研費 免疫アレルギー 疾患予防・治療 研究事業	免疫疾患に対する免疫抑制療法等先端的新規治療法に関する研究	H17-H18	2,000	代表
渡辺照男	科研費(基盤)	肥満における PPARs の役割: 遺伝子改変ウサギを用いた研究	H17-H18	900	代表
平川奈緒 美	科研費(基盤)	複合性局所疼痛症候群(CRPS)の病態と治療に関する基礎的・臨床的研究	H17-H18	700	代表
友田清光	科研費(奨励)	遺伝子組換えウサギの繁殖: 高圧蒸気滅菌可能な繁殖用巣箱の材質に関する検討	H18	750	代表
詫広茂信	科研費(奨励)	遺伝子組換えウサギの凍結精子による輸送方法に関する研究	H18	720	代表

H18 年度にセンターに設置している施設・機器等を利用して得た研究費は本庄地区 48,847 (千円)、鍋島地区 13,052 (千円) であり、総計 61,899 (千円) である。